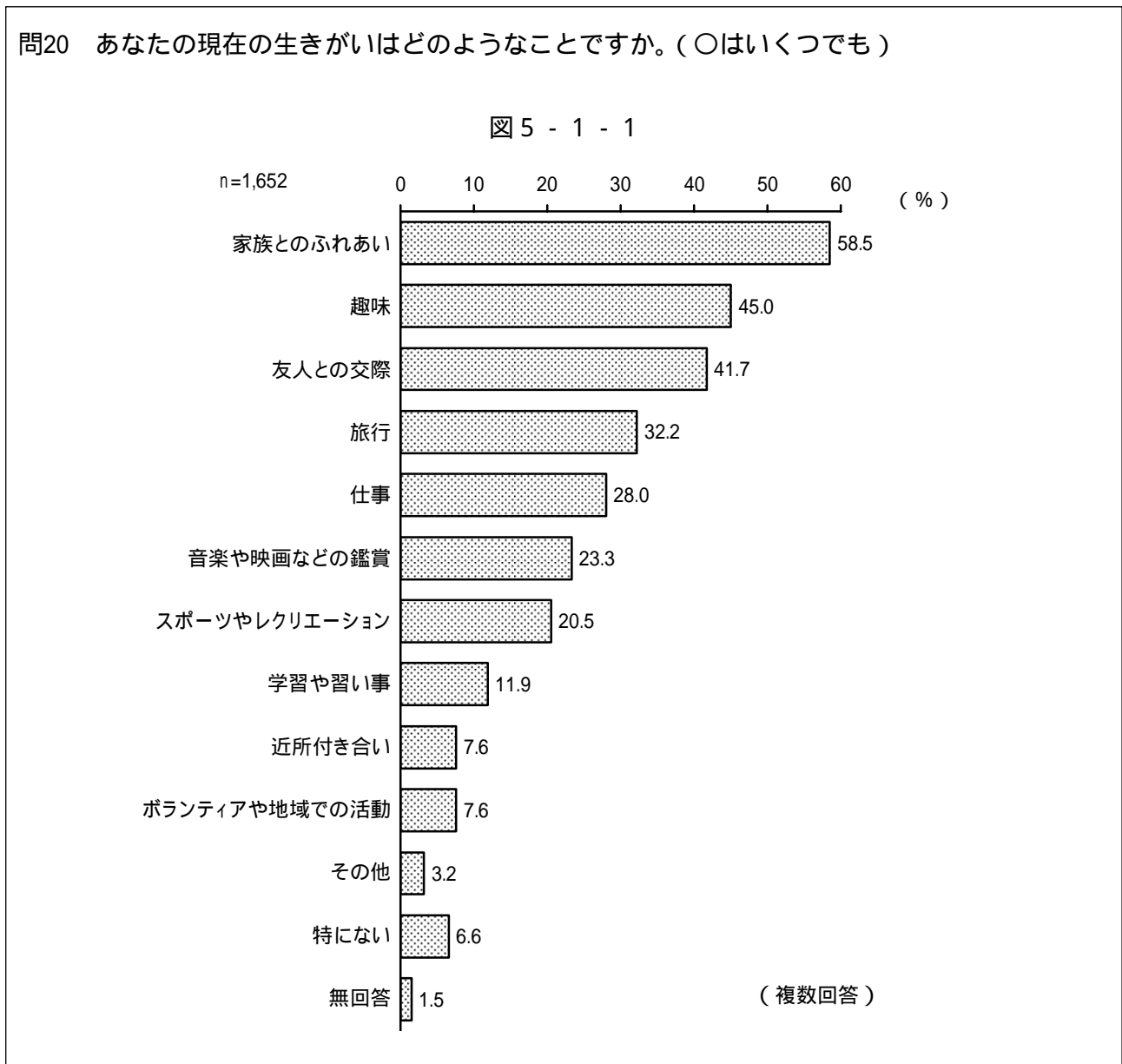


## 5. 「八王子ゆめおりプラン」の施策指標の目標値に対する達成度

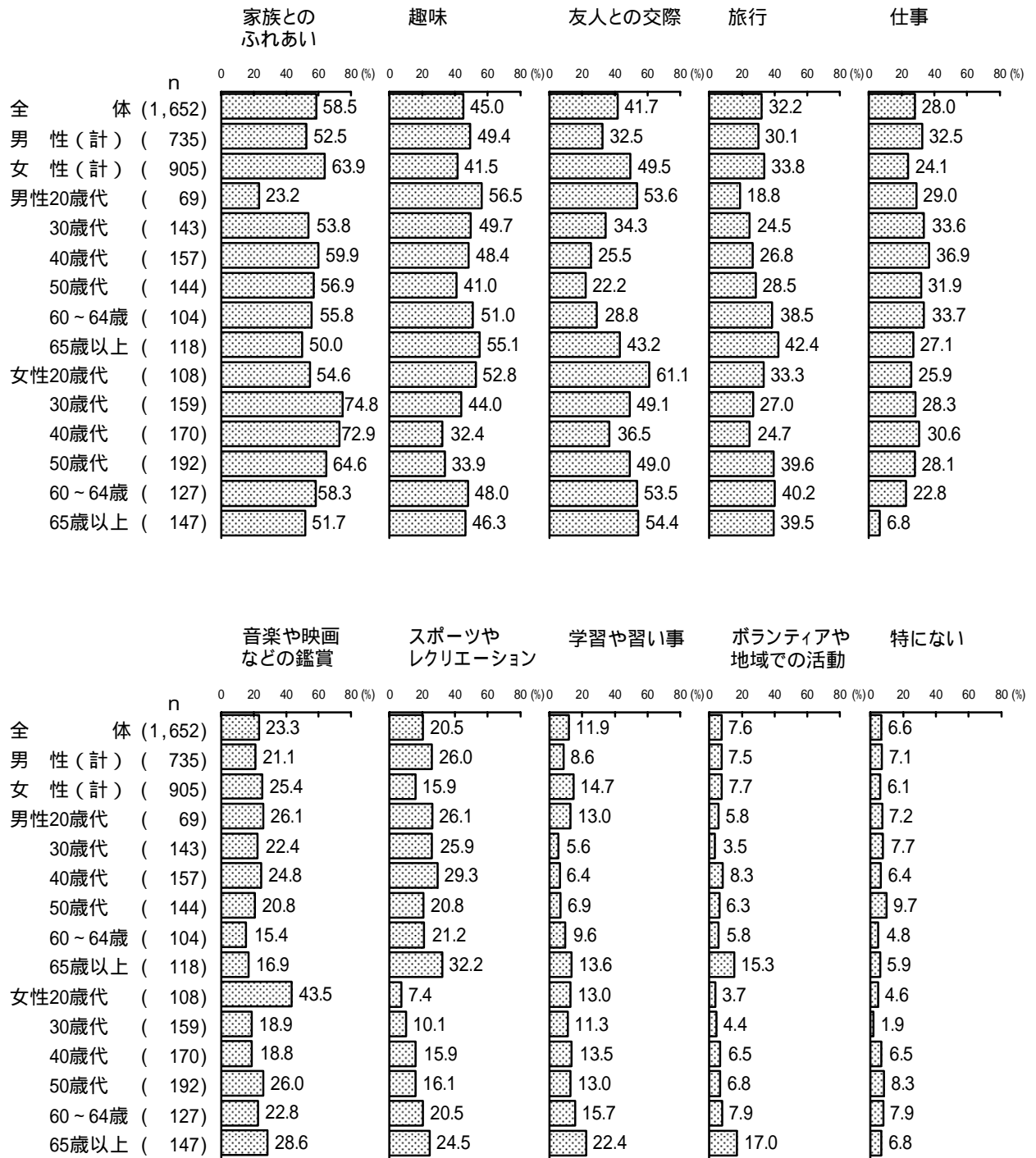
### 5 - 1 現在の生きがい

「家族とのふれあい」が6割弱



現在の生きがいについて聞いたところ、「家族とのふれあい」が6割弱（58.5%）と最も高く、ついで「趣味」（45.0%）、「友人との交際」（41.7%）、「旅行」（32.2%）、「仕事」（28.0%）の順で続いている。（図5 - 1 - 1）

図5 - 1 - 2 現在の生きがい - 性・年齢別（上位9項目+「特にない」）



性別にみると、「友人との交際」は17.0ポイント、「家族とのふれあい」は11.4ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。逆に「スポーツやレクリエーション」は10.1ポイント、「仕事」は8.4ポイント、それぞれ男性のほうが高くなっている。

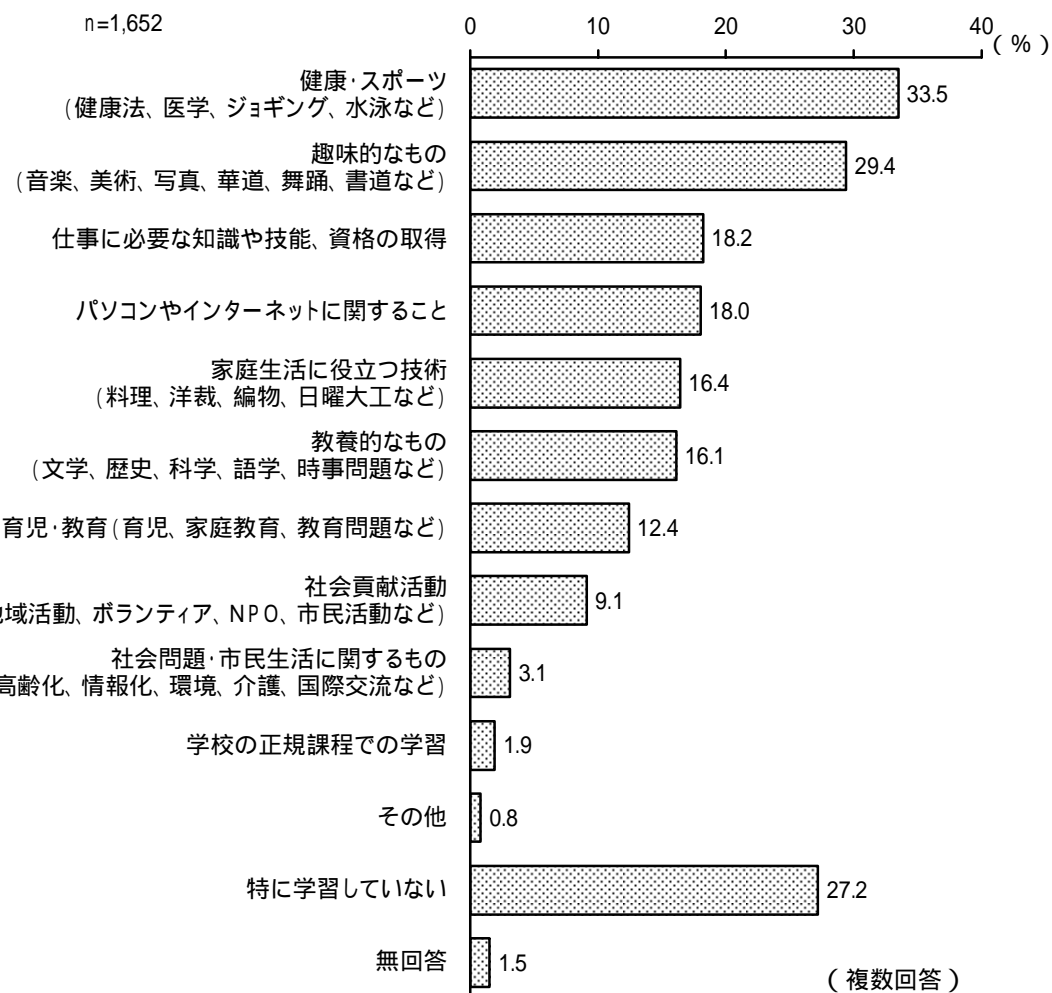
性・年齢別にみると、「家族とのふれあい」は、女性の30歳代で7割台半ば（74.8%）と高く、女性の40歳代でも7割強（72.9%）と高くなっている。「友人との交際」は女性の20歳代で6割強（61.1%）と高く、「趣味」は男性の20歳代と60歳以上、女性の20歳代で5割を超えている。また、「音楽や映画などの鑑賞」は女性の20歳代で4割強（43.5%）と高く、「スポーツやレクリエーション」は男性の65歳以上で3割強（32.2%）と高くなっている。（図5 - 1 - 2）

## 5 - 2 この1年間に取り組んだ生涯学習活動

「健康・スポーツ（健康法、医学、ジョギング、水泳など）」が3割強

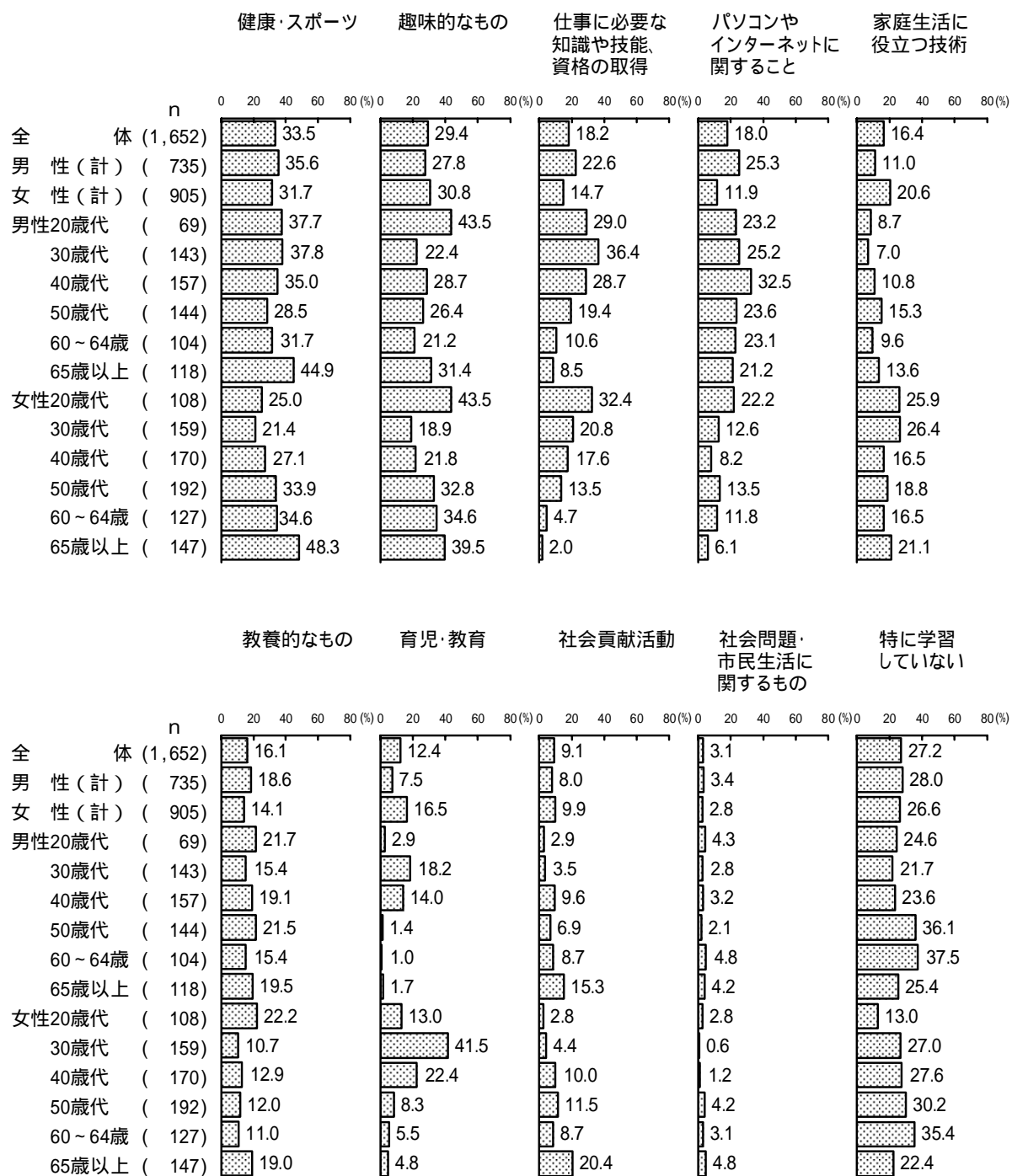
問21 あなたがこの1年間に取り組んだ生涯学習活動はどれですか。（○はいくつでも）

図5 - 2 - 1



この1年間に取り組んだ生涯学習活動について聞いたところ、「健康・スポーツ（健康法、医学、ジョギング、水泳など）」が3割強（33.5%）と最も高く、ついで「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道など）」（29.4%）、「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」（18.2%）、「パソコンやインターネットに関すること」（18.0%）、「家庭生活に役立つ技術（料理、洋裁、編物、日曜大工など）」（16.4%）と続いている。（図5 - 2 - 1）

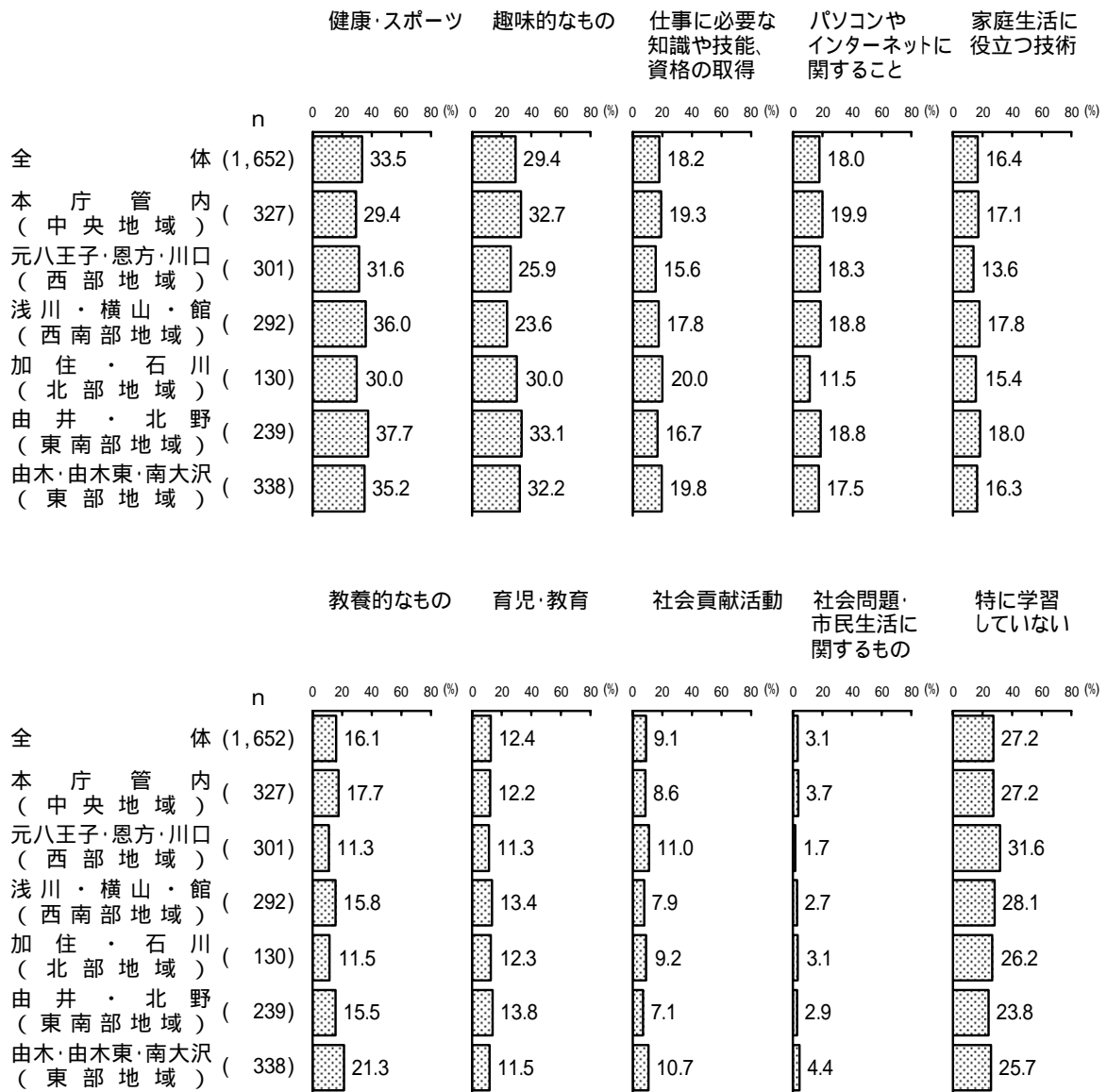
図5 - 2 - 2 この1年間に取り組んだ生涯学習活動 - 性・年齢別(上位9項目+「特に学習していない」)



性別にみると、「パソコンやインターネットに関すること」は13.4ポイント、「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」は7.9ポイント、それぞれ男性のほうが高く、「家庭生活に役立つ技術」は9.6ポイント、「育児・教育」は9.0ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。

性・年齢別にみると、「健康・スポーツ」は男女ともに65歳以上が4割台と高く、「趣味的なもの」では男女ともに20歳代で4割強(男女ともに43.5%)と高くなっている。「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」は男女ともにおおむね年代が下がるにつれて割合が高く、男性の30歳代で4割弱(36.4%)、女性の20歳代で3割強(32.4%)と高くなっている。また、「育児・教育」は女性の30歳代で4割強(41.5%)と突出して高くなっている。(図5 - 2 - 2)

図5 - 2 - 3 この1年間に取り組んだ生涯学習活動 - 居住地域別  
(上位9項目+「特に学習していない」)



居住地域別にみると、「健康・スポーツ」は由井・北野（東南部地域）（37.7%）、浅川・横山・館（西南部地域）（36.0%）がともに4割弱と高くなっている。（図5 - 2 - 3）

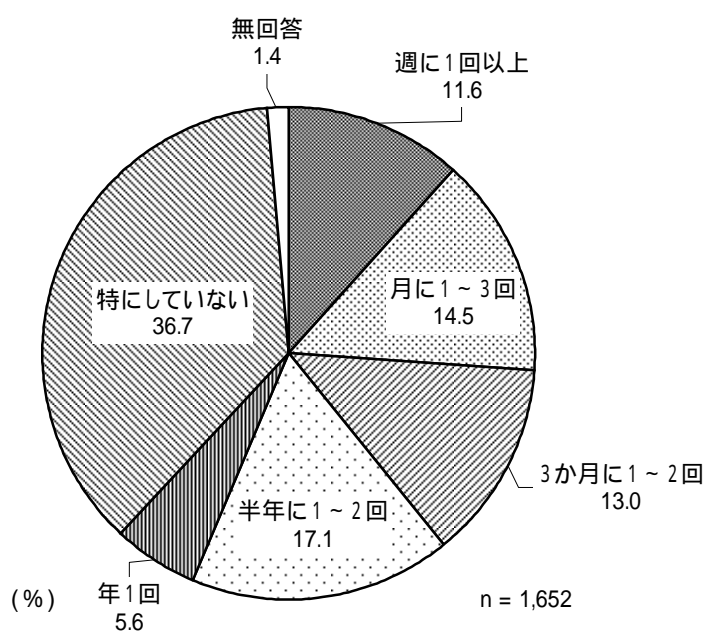
### 5 - 3 この1年間の芸術・文化活動の頻度

「特にしていない」が4割弱

問22 あなたは、この1年間にどのくらいの頻度で芸術・文化活動に参加しましたか。(鑑(観)賞も含みます)( は1つだけ)

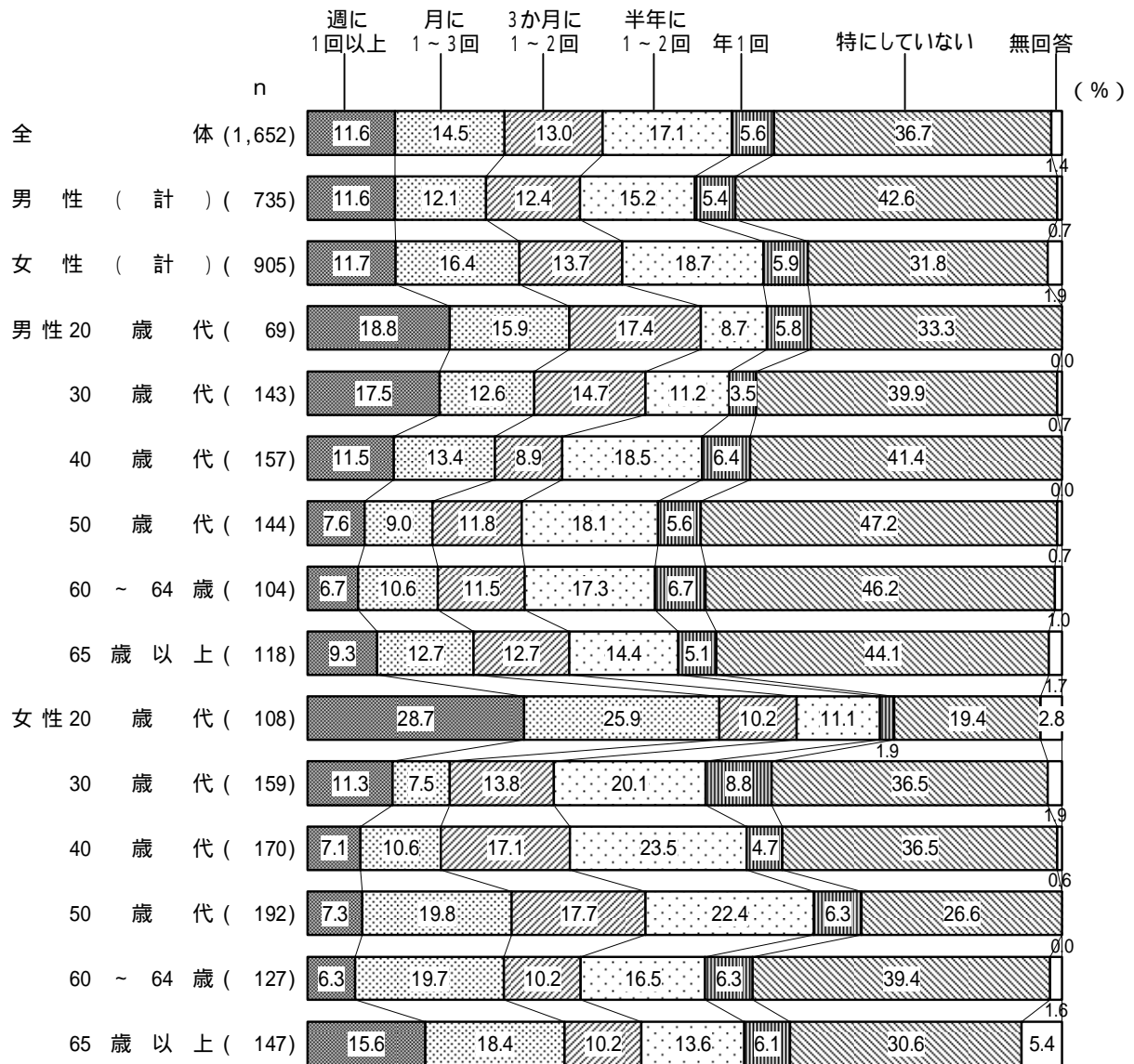
芸術・文化活動の分野は、文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊、映画、メディア芸術(デジタルアート、アニメ・マンガ、ゲームなど)、伝統芸能(山車、歌舞伎、落語など)、茶道、華道、書道、囲碁、将棋、歴史・文化財(寺社・仏閣・史跡なども含む)などです。

図5 - 3 - 1



この1年間の芸術・文化活動の参加頻度について聞いたところ、「週に1回以上」が1割強(11.6%)、「月に1～3回」が1割台半ば(14.5%)、「3か月に1～2回」が1割強(13.0%)、「半年に1～2回」が2割弱(17.1%)となっている。一方、「特にしていない」は4割弱(36.7%)となっている。(図5 - 3 - 1)

図5 - 3 - 2 この1年間の芸術・文化活動の頻度 - 性・年齢別



性別にみると、「月に1~3回」は4.3ポイント、「半年に1~2回」は3.5ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。逆に「特にしていない」は男性のほうが10.8ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「週に1回以上」と「月に1~3回」の合計は男女ともに20歳代（男性34.7%、女性54.6%）が最も高くなっている。一方、「特にしていない」は男性の40歳代以上の年代で4割以上と高くなっている。（図5 - 3 - 2）

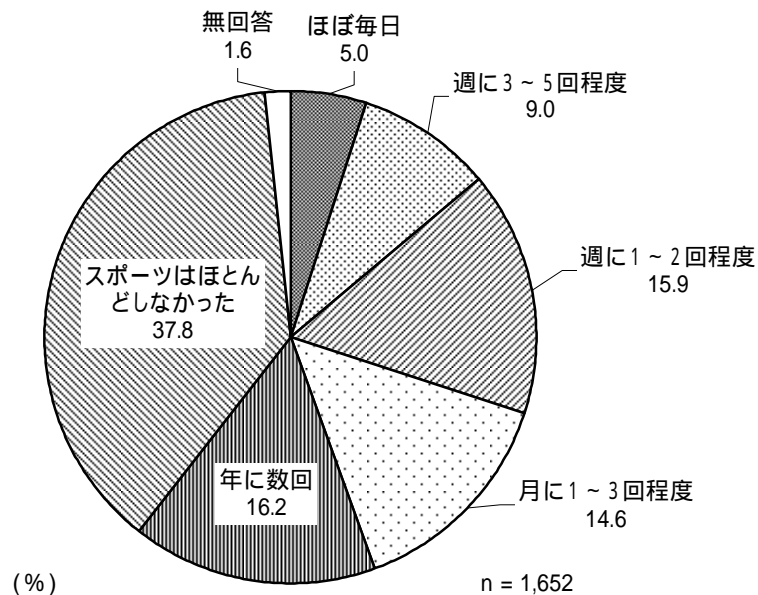
## 5 - 4 この1年間に行ったスポーツの頻度

『週1回以上』がほぼ3割

問23 あなたがこの1年間にスポーツを行った回数はどのくらいですか。複数のスポーツを行っている場合は、その合計数をお答えください。( は1つだけ)

スポーツの種類は、 屋内で行う球技(卓球、バレーボール、バドミントン、バスケットボールなど) 屋内で行う健康体操(エアロビクス、ヨガなどを含む) ダンスなどの屋内レクリエーションスポーツ 体操競技 武道 器具を使ったトレーニング 屋外で行う球技(野球、サッカー、テニス、ゴルフなど) 陸上競技 ジョギング、サイクリング、ウォーキングなど 登山やハイキングなどの野外活動 ゲートボールやグラウンドゴルフなどの屋外レクリエーションスポーツ スキー、スノーボード、スケート サーフィンやダイビングなどのマリンスポーツ エクストリーム・スポーツ(スケートボード、インラインスケート、BMXなど) 水泳など その他のスポーツ などです。

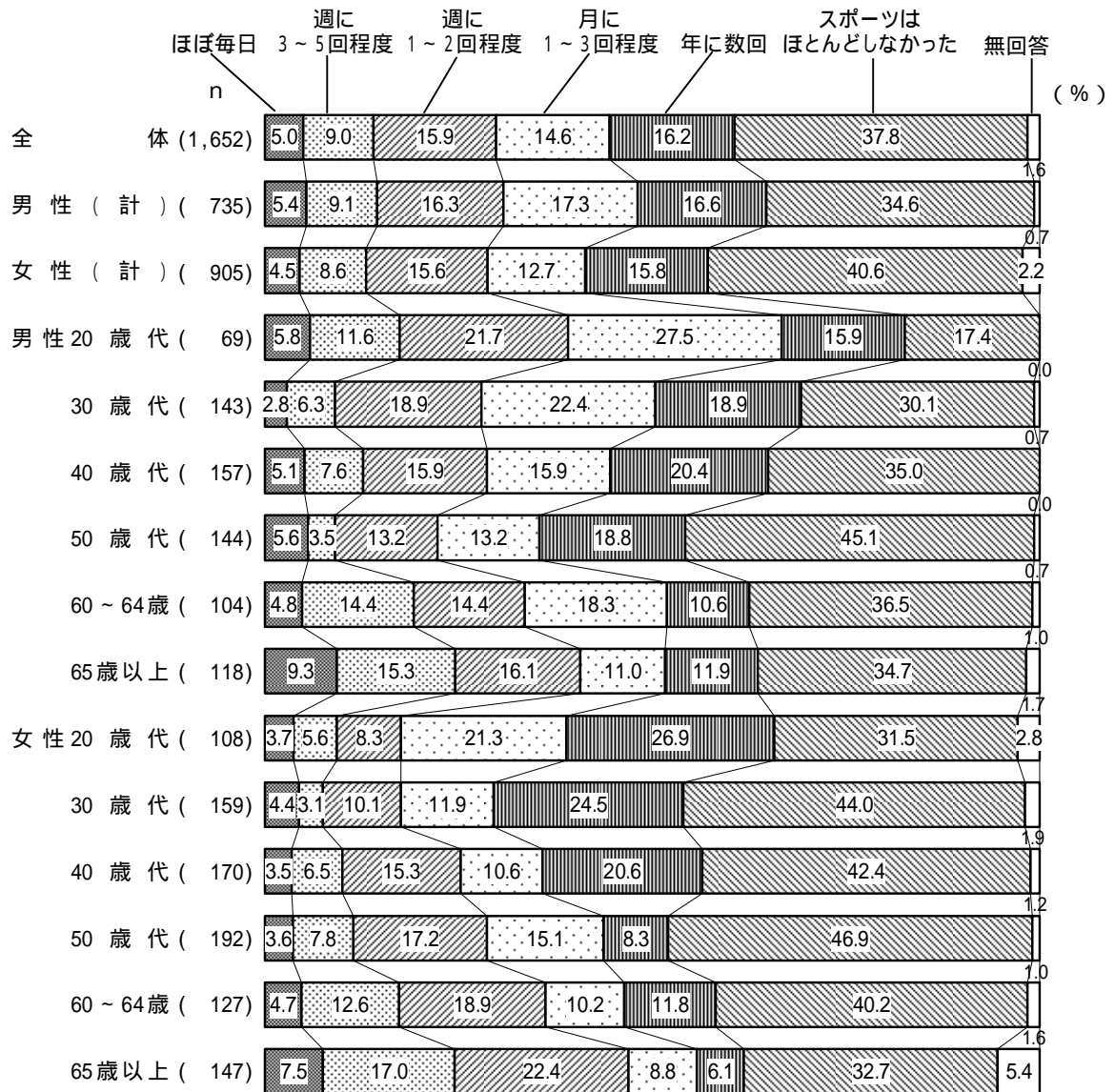
図 5 - 4 - 1



この1年間にスポーツを行った回数を聞いたところ、「ほぼ毎日」(5.0%)、「週に3~5回程度」(9.0%)、「週に1~2回程度」(15.9%)を合わせた『週1回以上』がほぼ3割(29.9%)となっている。「月に1~3回程度」は1割台半ば(14.6%)、「年に数回」は2割弱(16.2%)、「スポーツはほとんどしなかった」は4割弱(37.8%)となっている。(図5-4-1)



図5 - 4 - 2 この1年間に行ったスポーツの頻度 - 性・年齢別

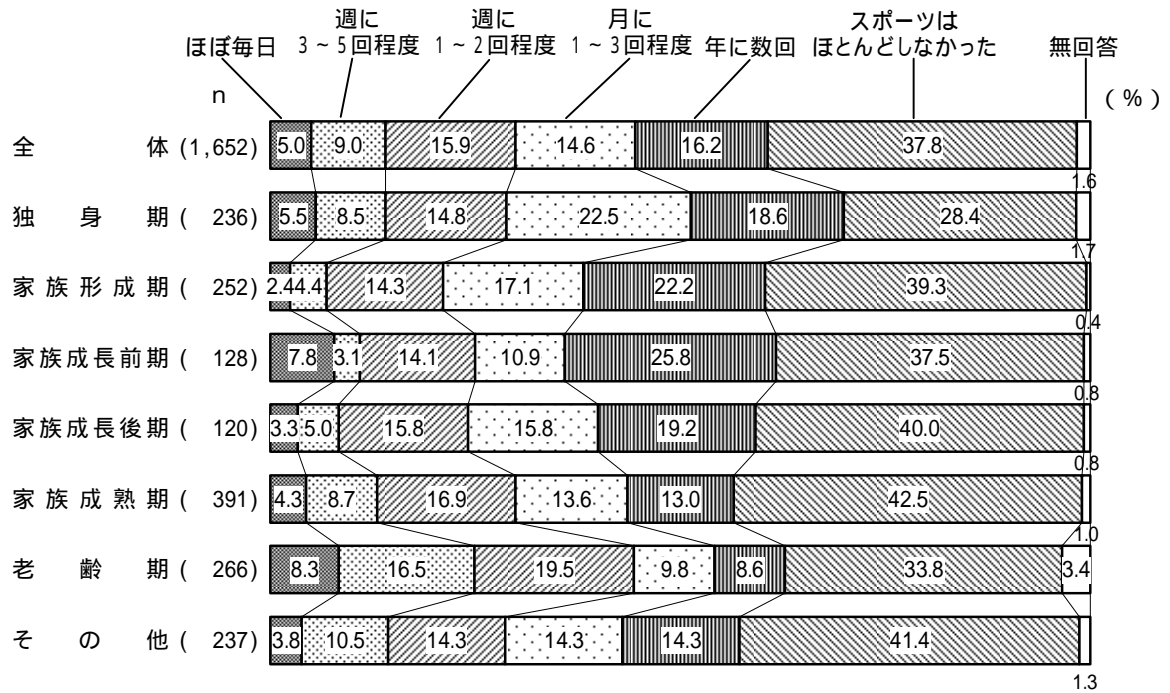


性別にみると、「月に1~3回程度」は男性のほうが4.6ポイント高くなっている。逆に「スポーツはほとんどしなかった」は女性のほうが6.0ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「週1回以上」は女性の65歳以上で5割弱（46.9%）と高くなっている。また、「スポーツはほとんどしなかった」は女性の50歳代で5割弱（46.9%）と高くなっている。

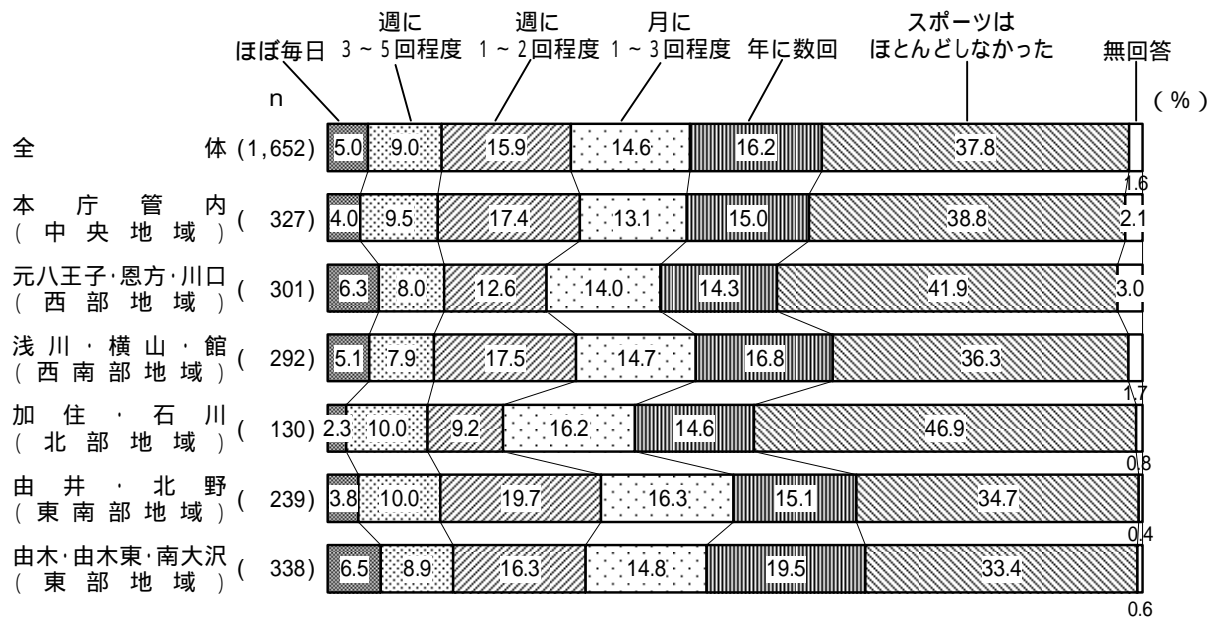
(図5 - 4 - 2)

図5 - 4 - 3 この1年間に行ったスポーツの頻度 - ライフステージ別



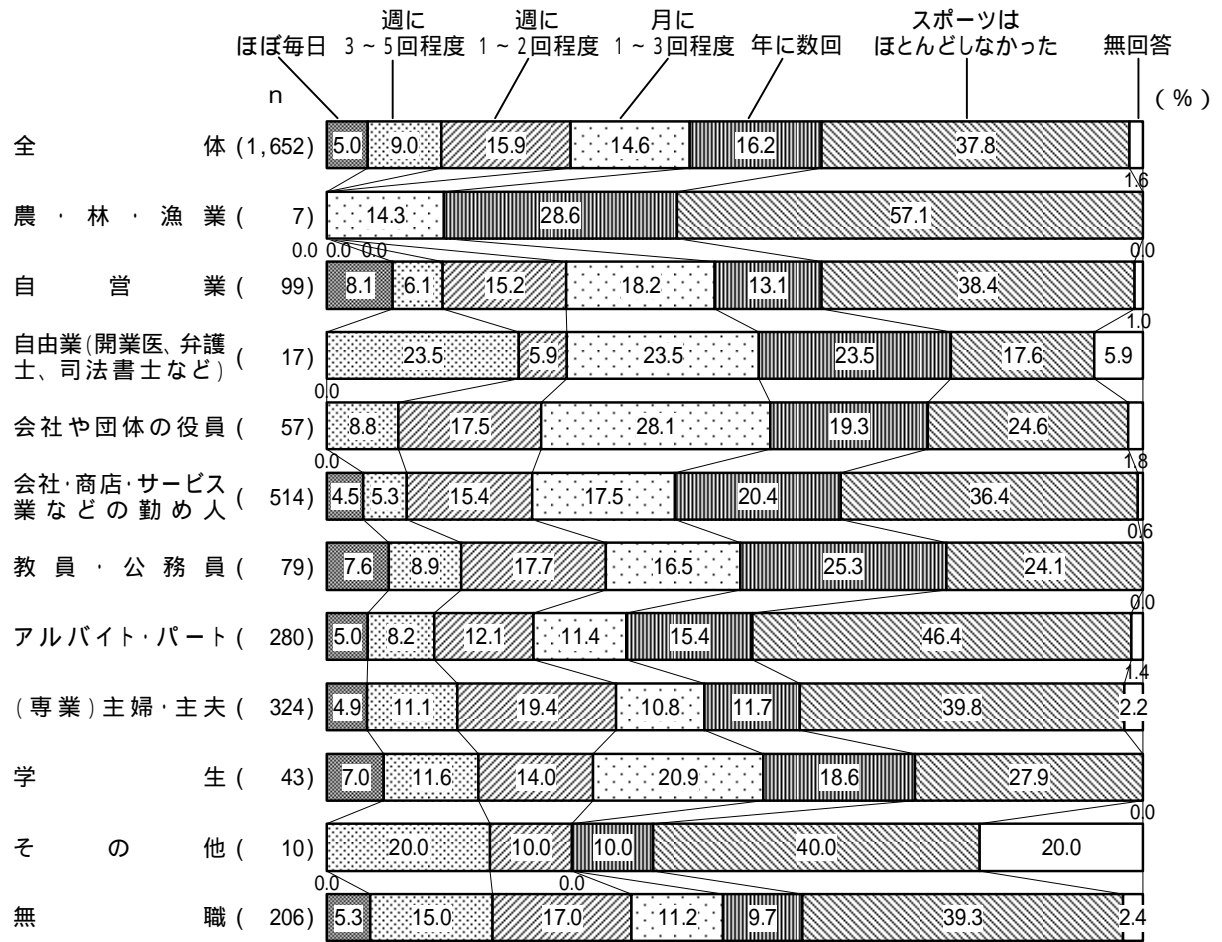
ライフステージ別にみると、『週1回以上』は老齢期が4割台半ば(44.3%)と高くなっている。  
(図5 - 4 - 3)

図5 - 4 - 4 この1年間に行ったスポーツの頻度 - 居住地域別



居住地域別にみると、『週1回以上』は由井・北野(東南部地域)で3割強(33.5%)と高くなっている。また、「スポーツはほとんどしなかった」は加住・石川(北部地域)で5割弱(46.9%)と高くなっている。(図5 - 4 - 4)

図5 - 4 - 5 この1年間に行ったスポーツの頻度 - 職業別



職業別にみると、『週1回以上』は無職で4割弱(37.3%)、(専業)主婦・主夫(35.4%)、教員・公務員(34.2%)はともに3割台半ばと高くなっている。(図5 - 4 - 5)

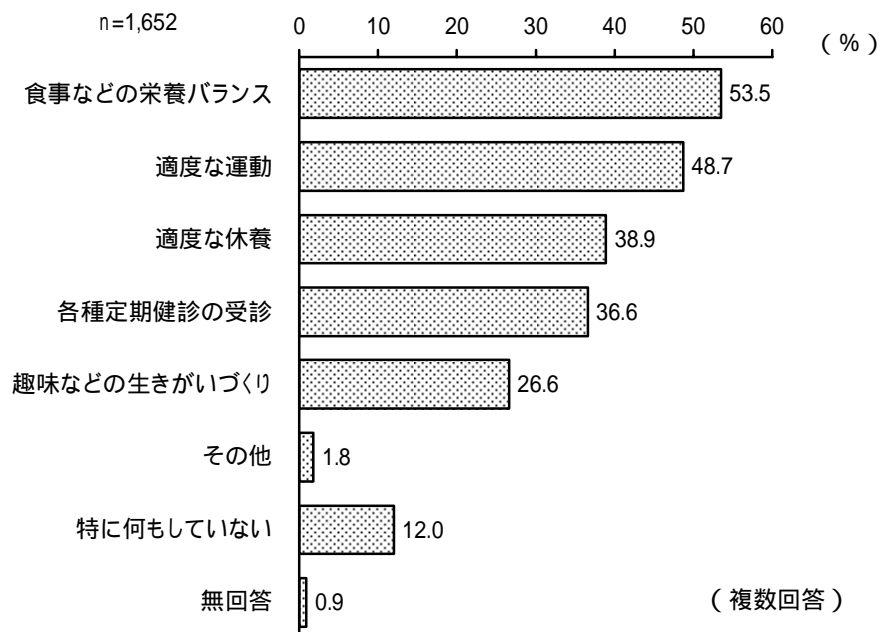
## 5 - 5 健康のために心がけていること

### 「食事などの栄養バランス」が5割強

問24 あなたが健康の維持・増進のために、自ら心がけて行動していることはどれですか。

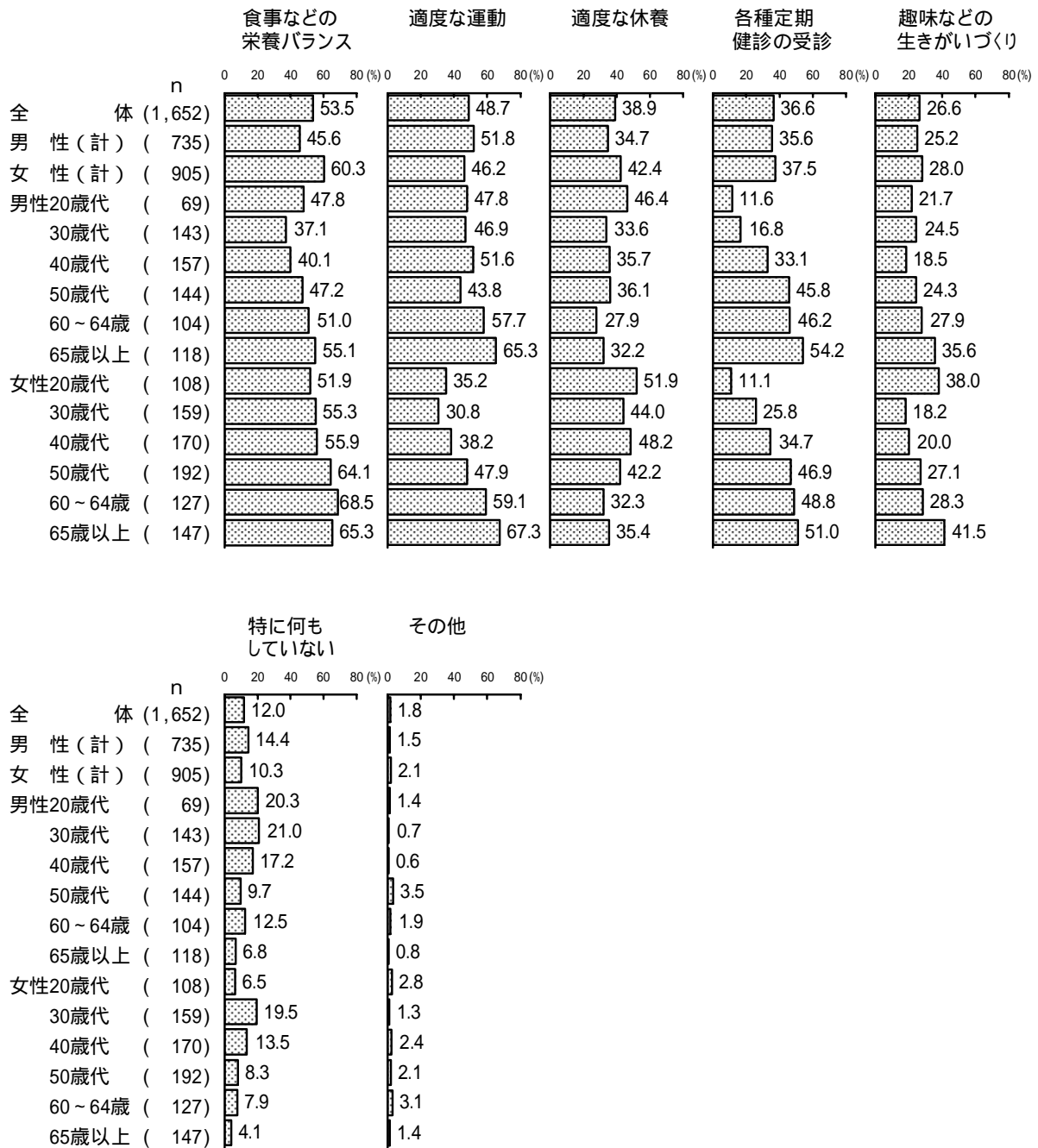
(○はいくつでも)

図5 - 5 - 1



健康の維持・増進のために自ら心がけて行動していることについて聞いたところ、「食事などの栄養バランス」が5割強（53.5%）と最も高く、ついで「適度な運動」（48.7%）、「適度な休養」（38.9%）、「各種定期健診の受診」（36.6%）と続いている。（図5 - 5 - 1）

図5 - 5 - 2 健康のために心がけていること - 性・年齢別



性別にみると、「食事などの栄養バランス」は14.7ポイント、「適度な休養」は7.7ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。逆に「適度な運動」は男性のほうが5.6ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「食事などの栄養バランス」は女性の50歳代以上の年代で、6割台と高くなっている。「適度な運動」は男女ともに65歳以上で6割台と高くなっている。また、「各種定期健診の受診」は男女ともに年代が上がるにつれて割合が高く、男性の65歳以上で5割台半ば(54.2%)、女性の65歳以上で5割強(51.0%)と高くなっている。(図5 - 5 - 2)

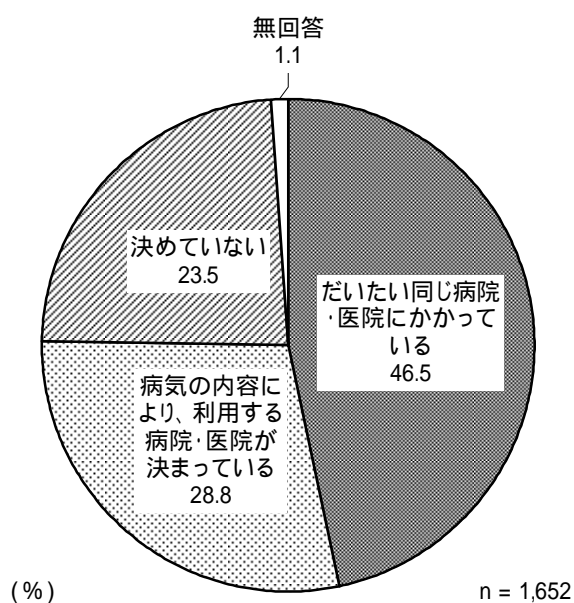
## 5 - 6 かかりつけの医療機関の有無

『かかりつけの医療機関を決めている』が7割台半ば

問25 あなたは、かかりつけの医療機関を決めていますか。( は1つだけ)

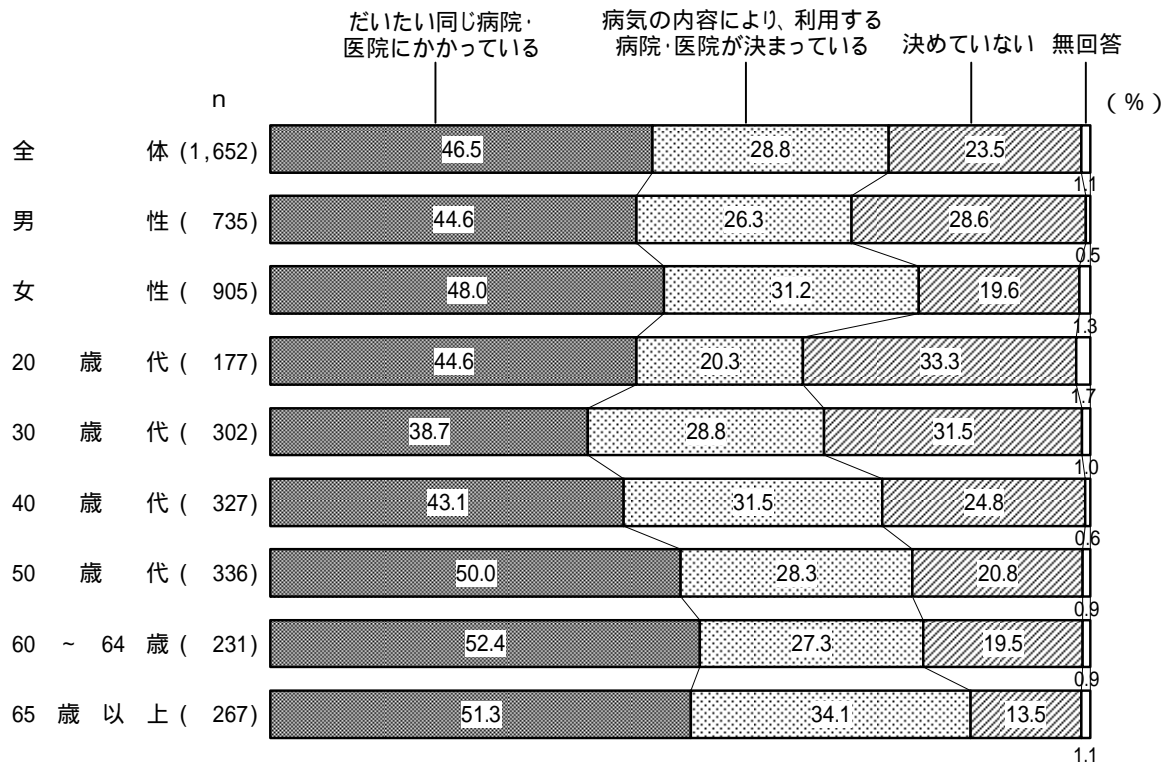
「かかりつけの医療機関」とは、自分の体の状態を把握している身近な医療機関のことで、普段の健康管理、病気の初期治療のほか、大病院での検査や治療が必要かどうかの判断、紹介などをしてくれます。

図 5 - 6 - 1



かかりつけの医療機関の有無について聞いたところ、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」(46.5%)、「病気の内容により、利用する病院・医院が決まっている」(28.8%)を合わせた『かかりつけの医療機関を決めている』は7割台半ば(75.3%)となっている。一方、「決めていない」は2割強(23.5%)となっている。(図5 - 6 - 1)

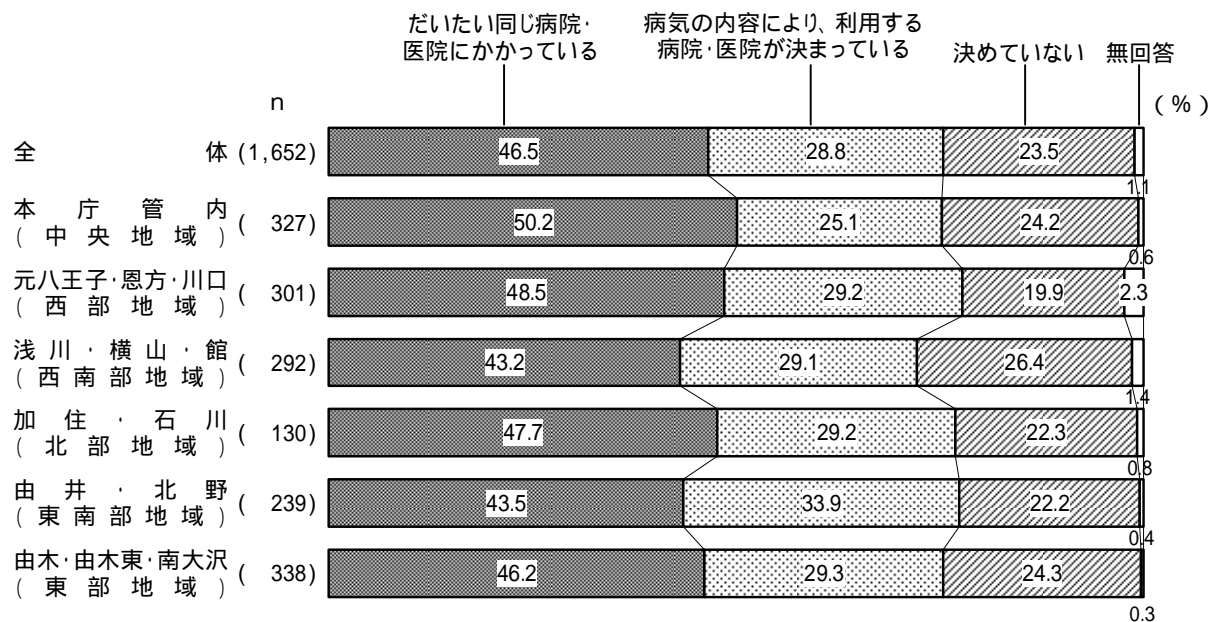
図5 - 6 - 2 かかりつけの医療機関の有無 - 性別・年齢別



性別にみると、『かかりつけの医療機関を決めている』は女性のほうが8.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「決めていない」は年代が下がるにつれて割合が上がり、特に20歳代では3割強（33.3%）と高くなっている。（図5 - 6 - 2）

図5 - 6 - 3 かかりつけの医療機関の有無 - 居住地域別



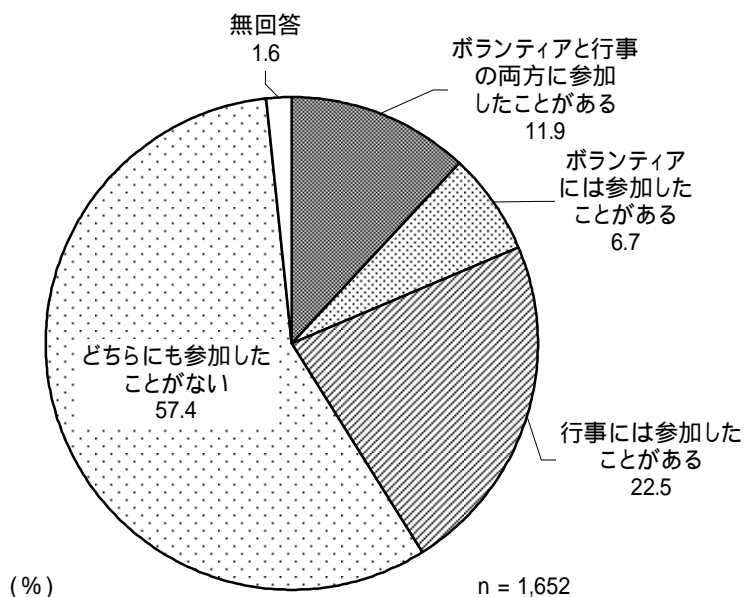
居住地域別にみると、「決めていない」は浅川・横山・館（西南部地域）で3割弱（26.4%）と高くなっている。（図5 - 6 - 3）

## 5 - 7 この1年間の地域行事への参加

『参加したことがある』が4割強

問26 あなたは、この1年間に地域の中でボランティア活動（清掃や防犯・防災活動、学校教育や地域スポーツ活動への支援・協力など）や行事（町内会等の地域のイベント・お祭りなど）に参加したことがありますか。（は1つだけ）

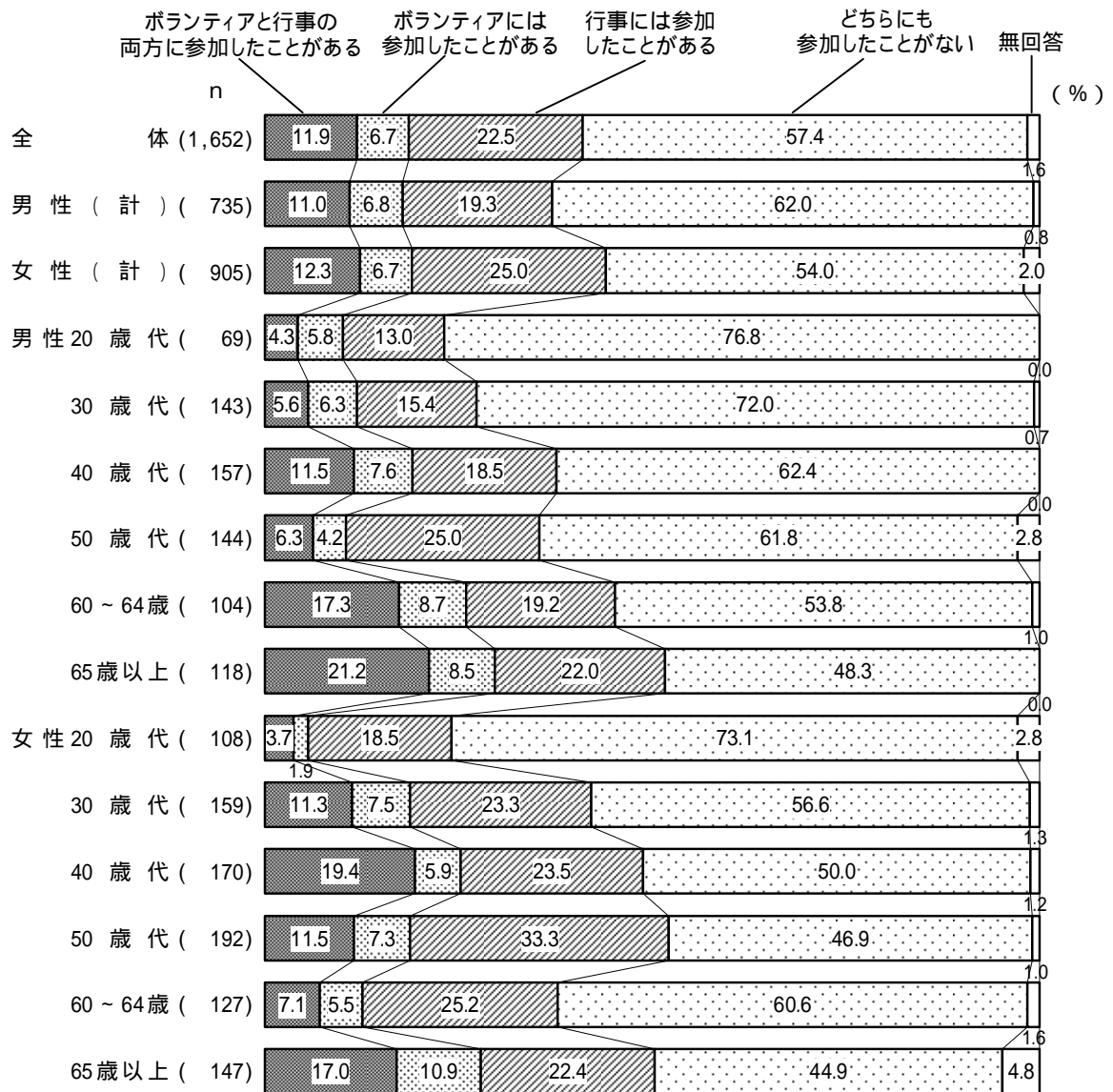
図5 - 7 - 1



この1年間に地域の中でボランティア活動や行事に参加したことがあるかを聞いたところ、「行事には参加したことがある」は2割強（22.5%）、「ボランティアと行事の両方に参加したことがある」（11.9%）、「ボランティアには参加したことがある」（6.7%）を合わせた『参加したことがある』は4割強（41.1%）となっている。一方、「どちらにも参加したことがない」は6割弱（57.4%）となっている。（図5 - 7 - 1）



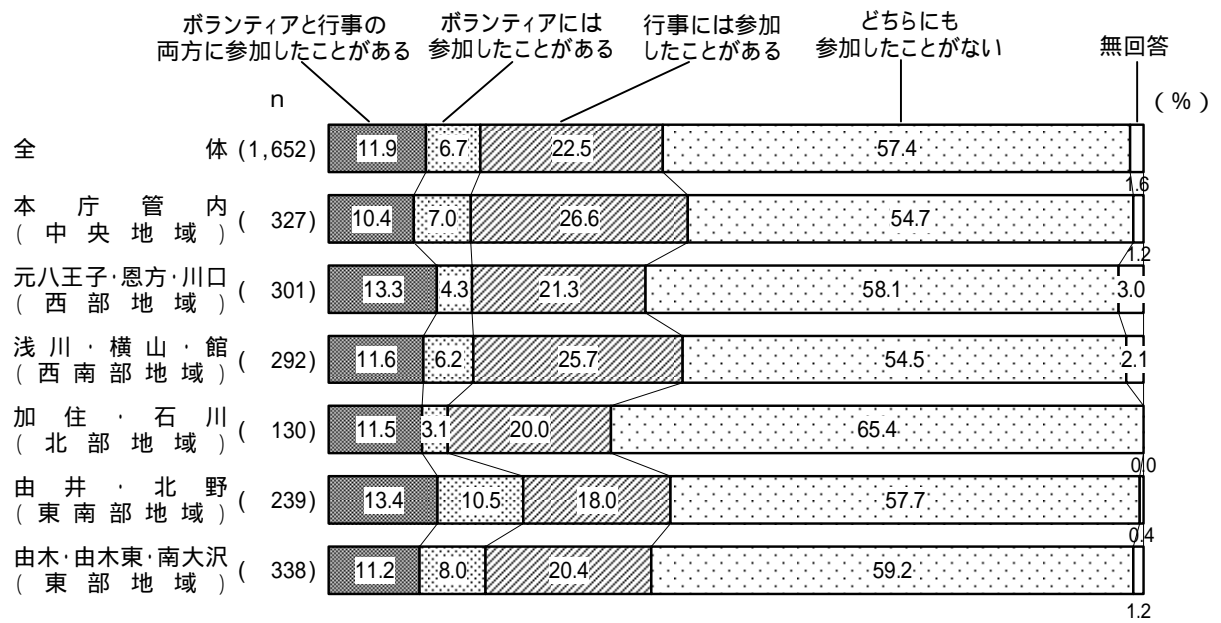
図5 - 7 - 2 この1年間の地域行事への参加 - 性・年齢別



性別にみると、『参加したことがある』は女性のほうが6.9ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『参加したことがある』は女性の50歳代（52.1%）、男性の65歳以上（51.7%）でともに5割強と高くなっている。（図5 - 7 - 2）

図5 - 7 - 3 この1年間の地域行事への参加 - 居住地域別



居住地域別にみると、『参加したことがある』は本庁管内（中央地域）で4割台半ば（44.0%）、浅川・横山・館（西南部地域）で4割強（43.5%）と高くなっている。（図5 - 7 - 3）

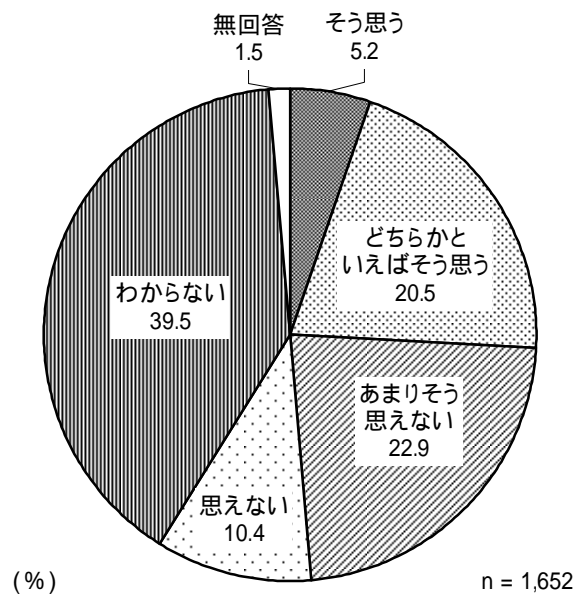
## 5 - 8 市民協働の推進状況

『そう思う』は2割台半ば

問27 あなたは、市が市民協働のまちづくりを進めていると感じますか。( は1つだけ)

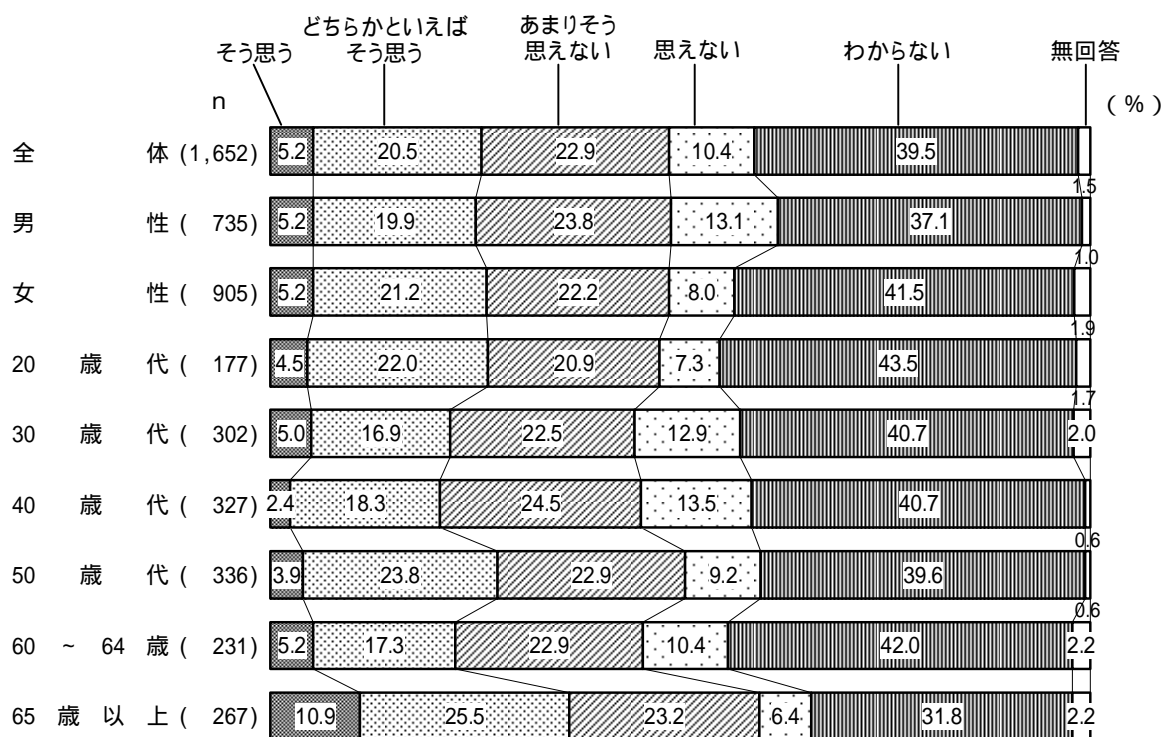
市では、市民参加条例に基づいて、計画・条例等の立案過程でのパブリックコメント(意見公募)の実施、各種審議会の市民委員の公募、アンケート調査の実施など、市政への市民参加機会の充実に努めています。この取り組みを通じて、市民の皆さんと行政が、対等なパートナーとして連携し、課題に取り組むまちを目指しています。

図 5 - 8 - 1



市が市民協働のまちづくりを進めていると感じるかどうかを聞いたところ、「そう思う」は5.2%にとどまり、「どちらかといえはそう思う」(20.5%)と合わせた『そう思う』は2割台半ば(25.7%)となっている。一方、「あまりそう思えない」(22.9%)と「思えない」(10.4%)を合わせた『思えない』は3割強(33.3%)となっている。(図5 - 8 - 1)

図5 - 8 - 2 市民協働の推進状況 - 性別・年齢別

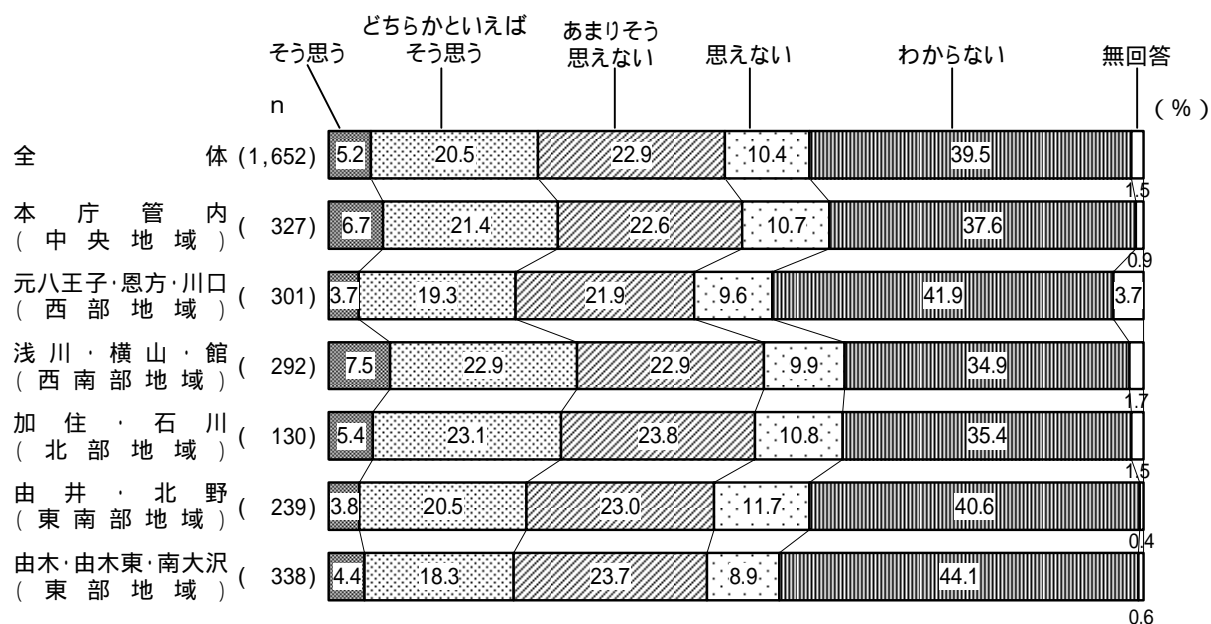


性別にみると、『思えない』は男性のほうが6.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『そう思う』は65歳以上で4割弱（36.4%）と高くなっている。

(図5 - 8 - 2)

図5 - 8 - 3 市民協働の推進状況 - 居住地域別



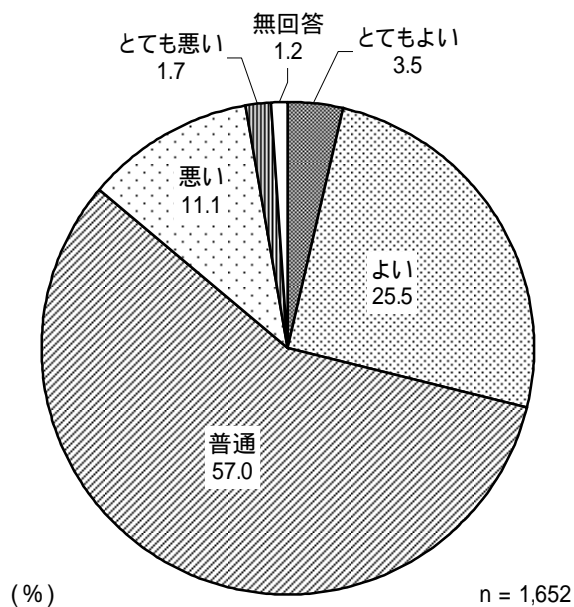
居住地域別にみると、『そう思う』は浅川・横山・館（西南部地域）でほぼ3割（30.4%）と高くなっている。(図5 - 8 - 3)

## 5 - 9 日常生活環境の治安

『よい』がほぼ3割

問28 あなたは、あなたのお住まいの地域の治安がよいと感じますか。( は1つだけ)

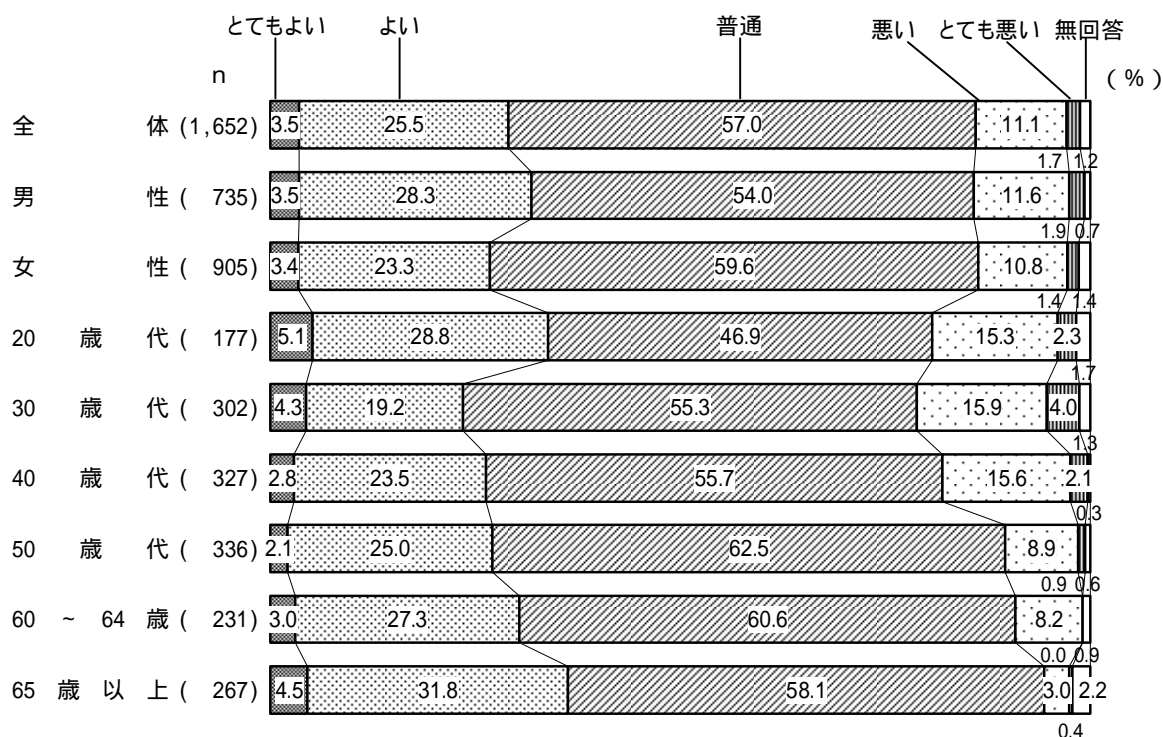
図5 - 9 - 1



地域の治安がよいと感じるかどうかを聞いたところ、「よい」は2割台半ば(25.5%)、これに「とてもよい」(3.5%)を合わせた『よい』はほぼ3割(29.0%)となっている。一方、「悪い」(11.1%)と「とても悪い」(1.7%)を合わせた『悪い』は1割強(12.8%)となっている。

(図5 - 9 - 1)

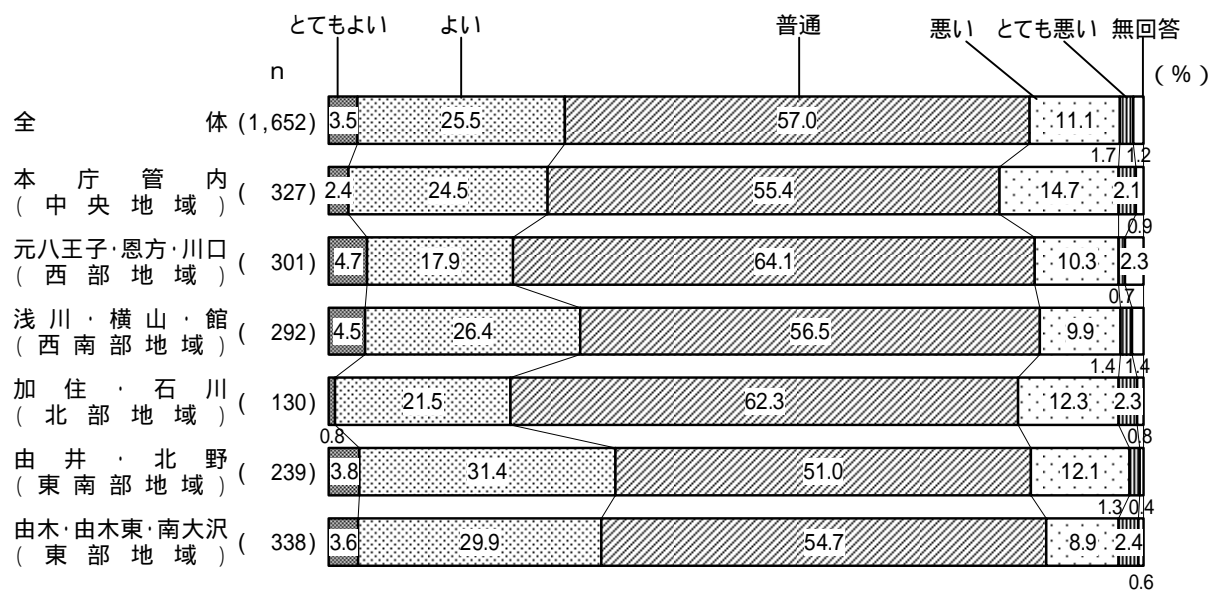
図5 - 9 - 2 日常生活環境の治安 - 性別・年齢別



性別にみると、『よい』は男性のほうが5.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『よい』は65歳以上で4割弱（36.3%）と高くなっている。（図5 - 9 - 2）

図5 - 9 - 3 日常生活環境の治安 - 居住地域別



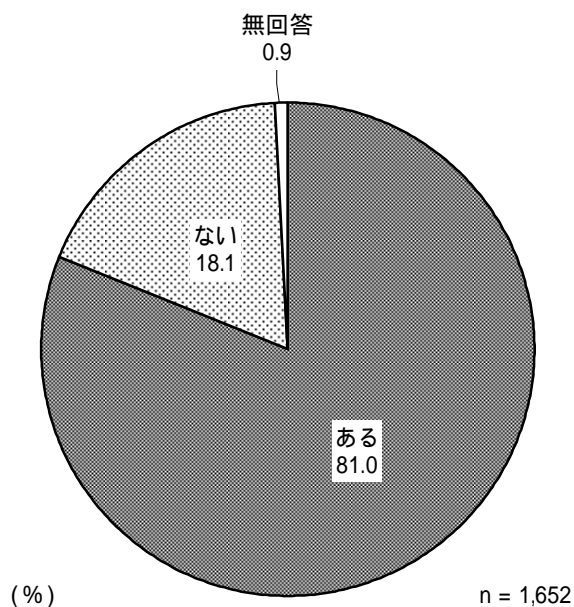
居住地域別にみると、『よい』は由井・北野（東南部地域）で3割台半ば（35.2%）と高くなっている。（図5 - 9 - 3）

## 5 - 10 市の窓口の利用の有無

利用したことが「ある」人は8割強

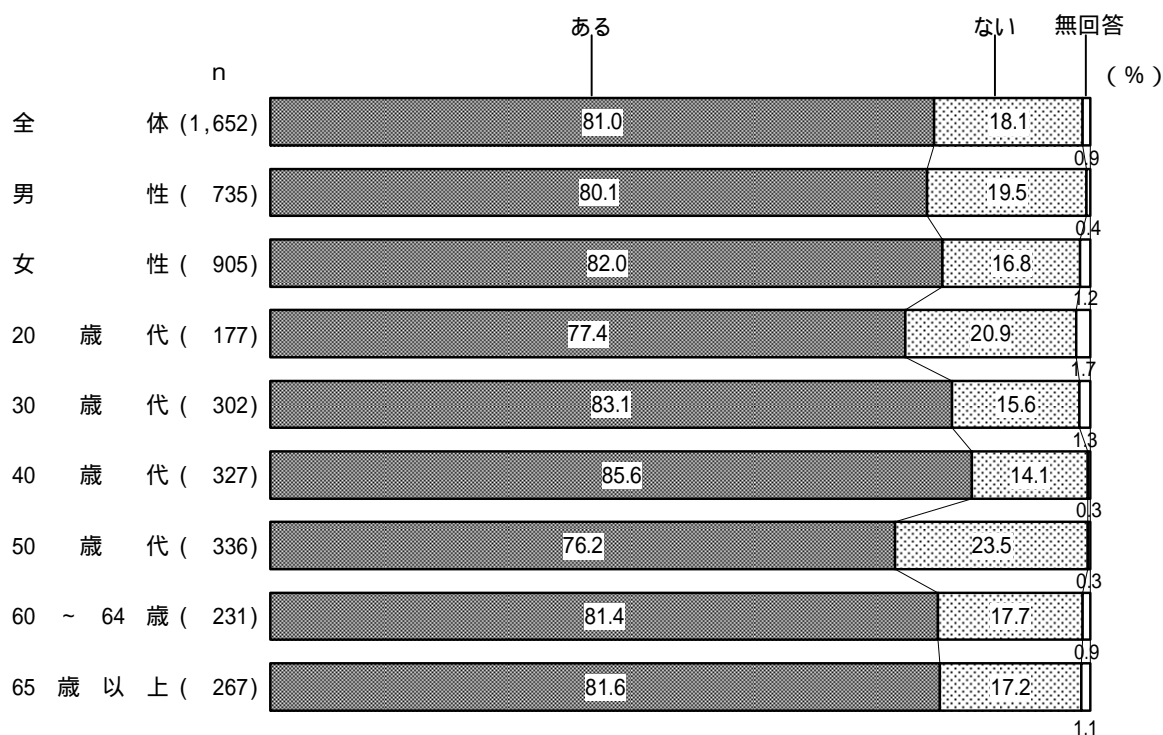
問29 あなたは、この1年間に市役所、事務所、図書館、体育館、保健所、保健センターなど、市の窓口を利用したことはありますか。( は1つだけ)

図5 - 10 - 1



この1年間に市役所、事務所、図書館、体育館、保健所、保健センターなど、市の窓口を利用したことがあるかを聞いたところ、「ある」が8割強(81.0%)を占め、「ない」は2割弱(18.1%)となっている。(図5 - 10 - 1)

図5 - 10 - 2 市の窓口の利用の有無 - 性別・年齢別

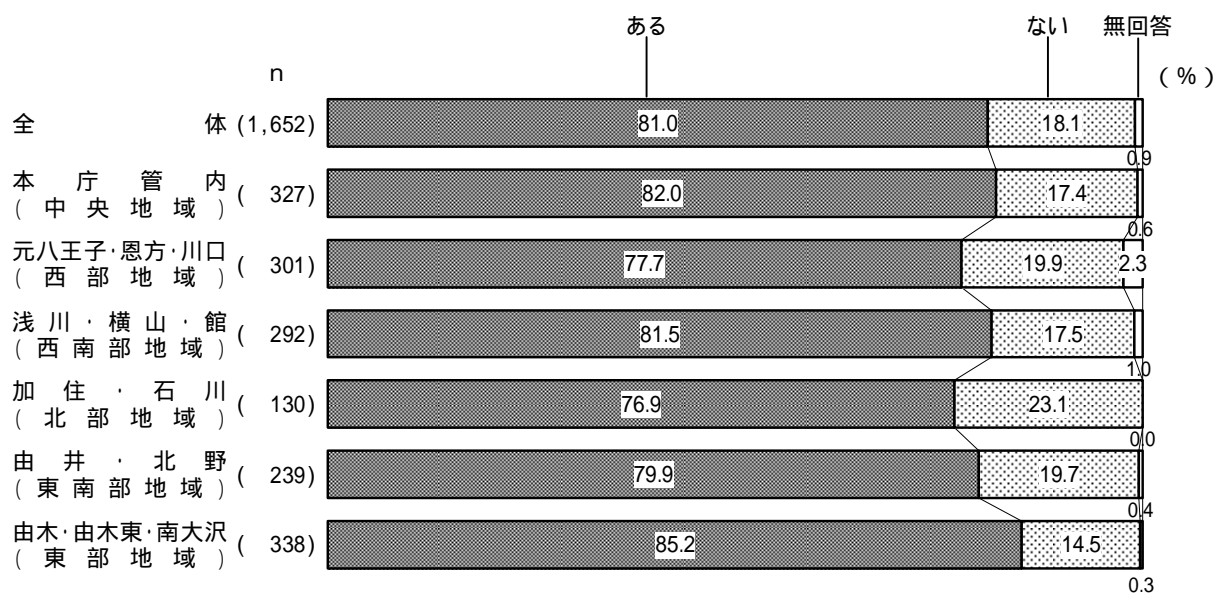


性別にみると、「ない」は2.7ポイント男性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「ある」は40歳代で8割台半ば（85.6%）と高くなっている。

(図5 - 10 - 2)

図5 - 10 - 3 市の窓口の利用の有無 - 居住地域別



居住地域別にみると、「ある」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で8割台半ば（85.2%）と高くなっている。(図5 - 10 - 3)



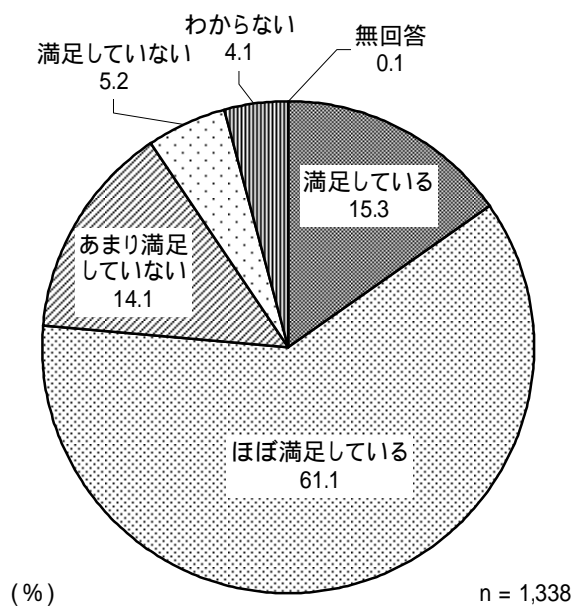
## 5 - 11 市の窓口サービスの満足度

『満足』が8割弱を占める

(問29で「ある」とお答えの方に)

問29 - 1 あなたは、市の窓口サービス（接客度や提供内容、処理時間など）に満足していますか。（ は1つだけ）

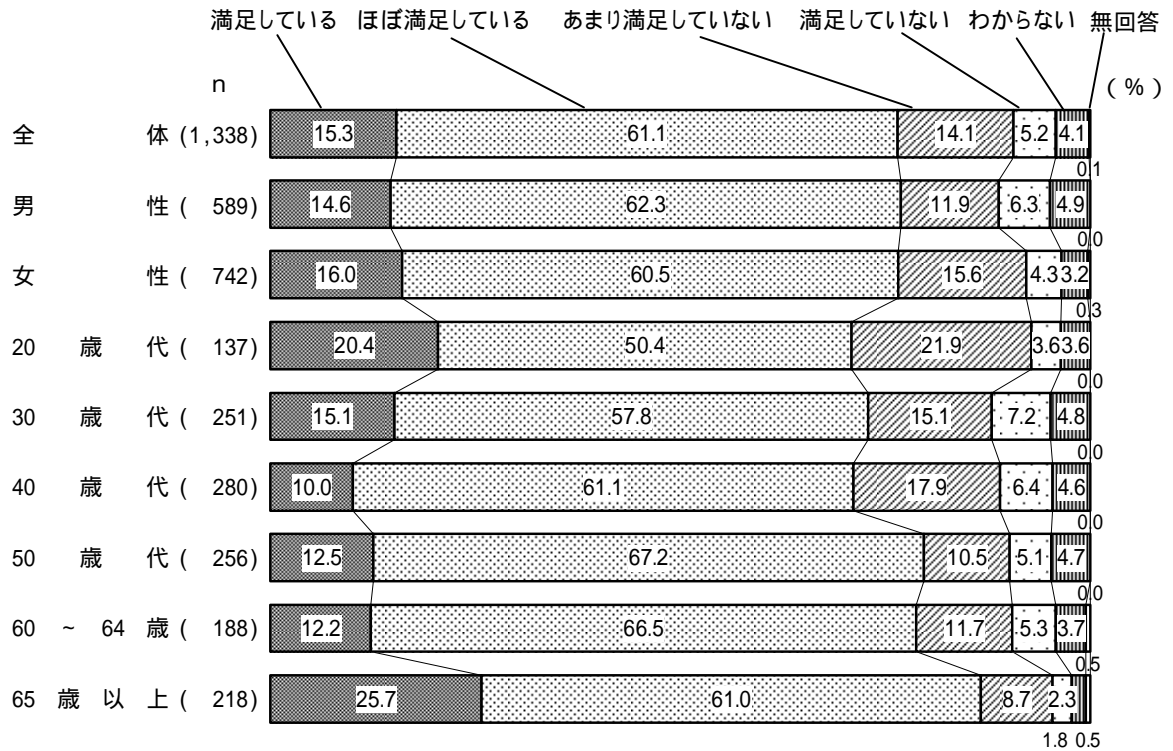
図5 - 11 - 1



この1年間で市の窓口の利用が「ある」と答えた人（1,338人）に、市の窓口サービスの満足度について聞いたところ、「ほぼ満足している」が6割強（61.1%）と最も高く、「満足している」（15.3%）と合わせた『満足』は8割弱（76.4%）となっている。一方、「あまり満足していない」（14.1%）と「満足していない」（5.2%）を合わせた『不満』はほぼ2割（19.3%）となっている。

(図5 - 11 - 1)

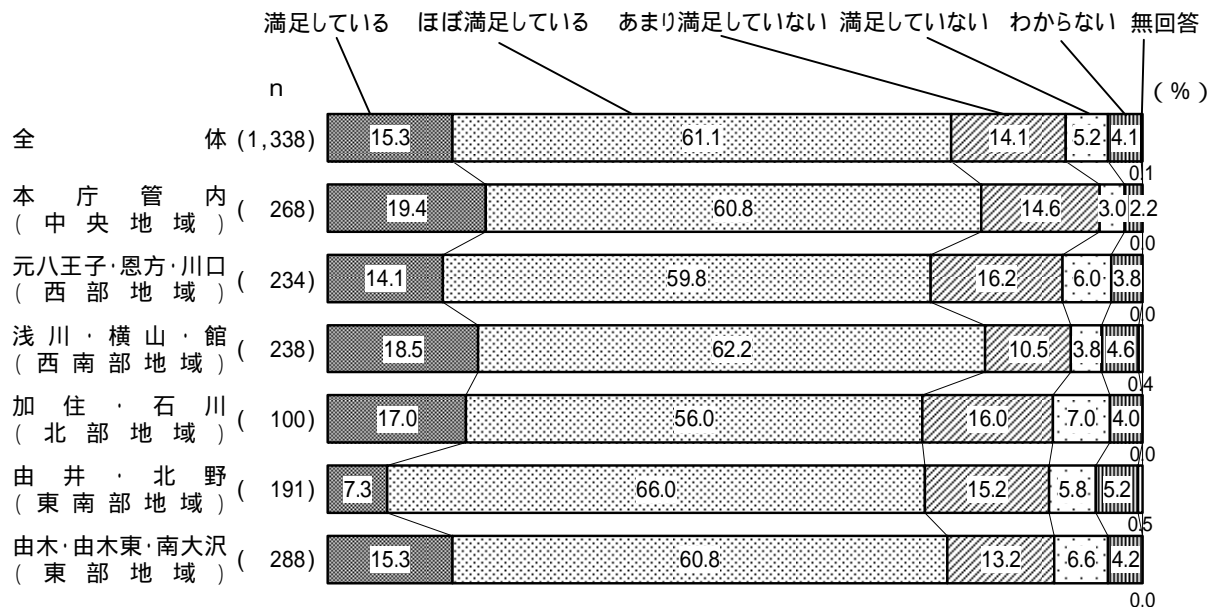
図5 - 11 - 2 市の窓口サービスの満足度 - 性別・年齢別



性別にみると、『不満』は1.7ポイント女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、『満足』は65歳以上で9割弱（86.7%）と高くなっている。（図5 - 11 - 2）

図5 - 11 - 3 市の窓口サービスの満足度 - 居住地域別



居住地域別にみると、『満足』は浅川・横山・館（西南部地域）（80.7%）、本庁管内（中央地域）（80.2%）でともにほぼ8割と高くなっている。（図5 - 11 - 3）

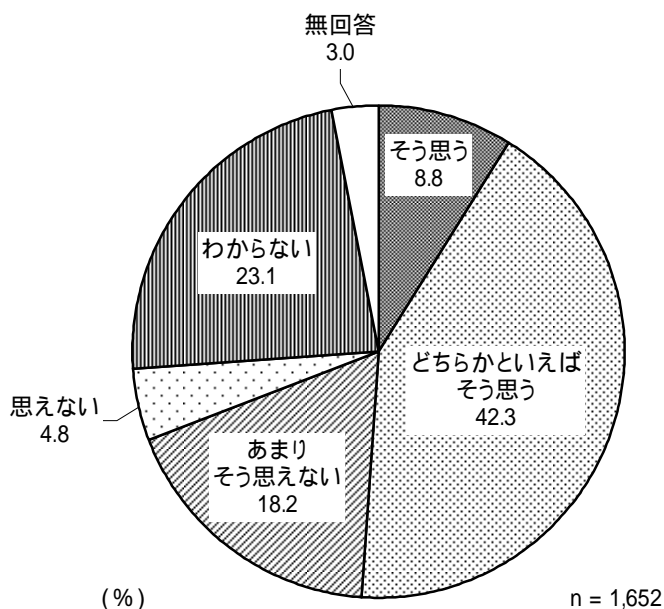
## 5 - 12 市の相談窓口の充実度

『**そう思う**』が**5割強**

問30 市では、市民生活を支援するため、下記のような様々な暮らしの相談を行っています。  
あなたは、市の相談の機会が充実していると思いますか。( は1つだけ)

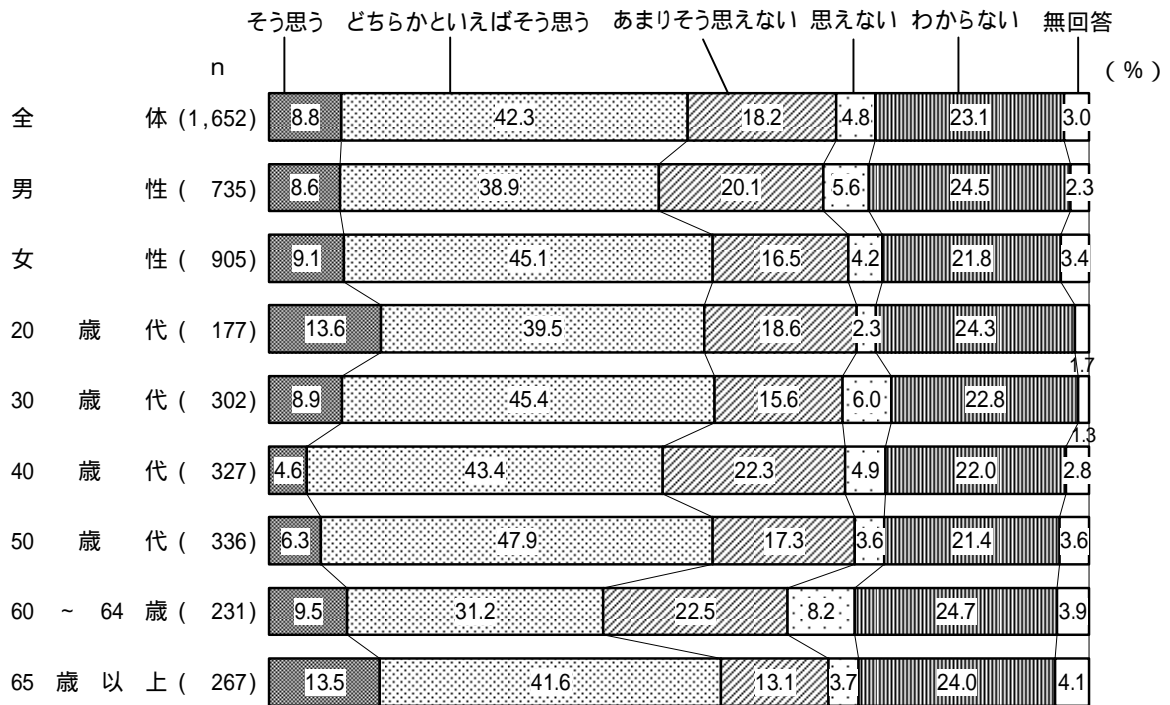
市で行っている相談は、人権、女性福祉、女性のための相談、法律、司法書士法律、不動産、登記、相続・遺言等暮らしの手続、年金・雇用保険・労働条件、交通事故、税金、行政、消費生活、外国人のための生活相談、団塊・シニア世代の地域参加支援、住まいのなんでも相談、建築に関する無料相談、就職などの心の悩み相談、高齢者総合、ひとり親家庭、専門家による子育て相談、子ども家庭総合、総合教育相談室、こども電話相談、あなたの相談室、こころの健康相談、HIVに関する相談、保健福祉・栄養相談、理学療法士による健康相談などです。

図 5 - 12 - 1



市の相談窓口が充実しているかどうかを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」(42.3%)と「そう思う」(8.8%)を合わせた『**そう思う**』は**5割強**(51.1%)となっている。一方、「あまりそう思えない」(18.2%)と「思えない」(4.8%)を合わせた『**思えない**』は**2割強**(23.0%)となっている。(図 5 - 12 - 1)

図5 - 12 - 2 市の相談窓口の充実度 - 性別・年齢別

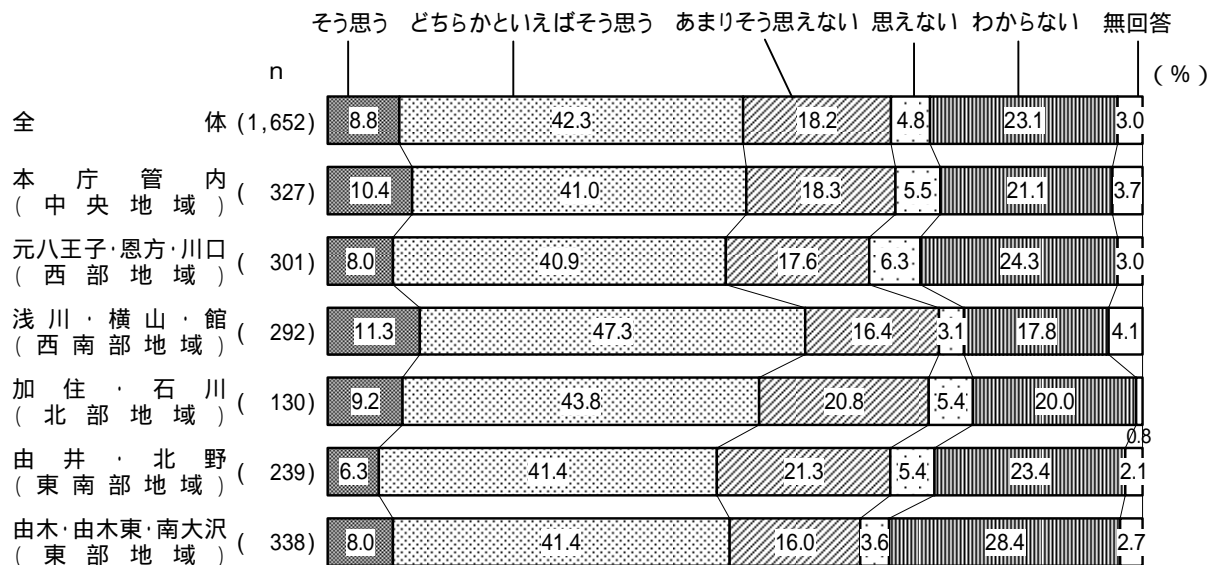


性別にみると、『そう思う』は女性のほうが6.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『思えない』は60～64歳でほぼ3割（30.7%）と高くなっている。

(図5 - 12 - 2)

図5 - 12 - 3 市の相談窓口の充実度 - 居住地域別



居住地域別にみると、『そう思う』は浅川・横山・館（西南部地域）で6割弱（58.6%）と高くなっている。(図5 - 12 - 3)

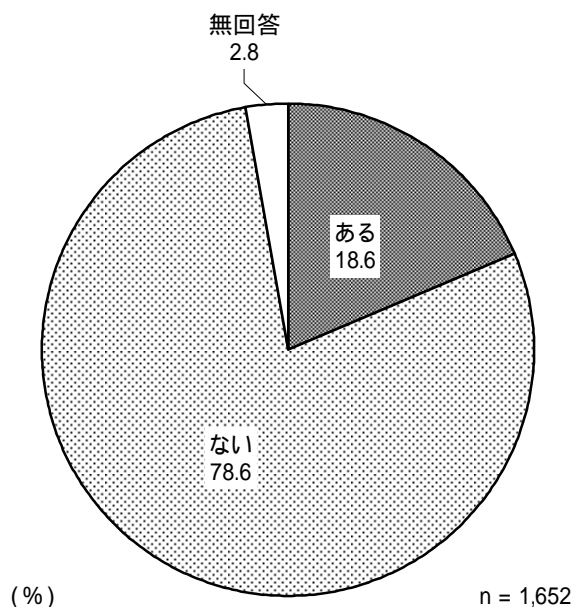
## 5 - 13 市の相談窓口の利用の有無

利用したことが「ある」人は2割弱

問31 あなたは、下記のような市の相談窓口を利用したことがありますか。( は1つだけ)

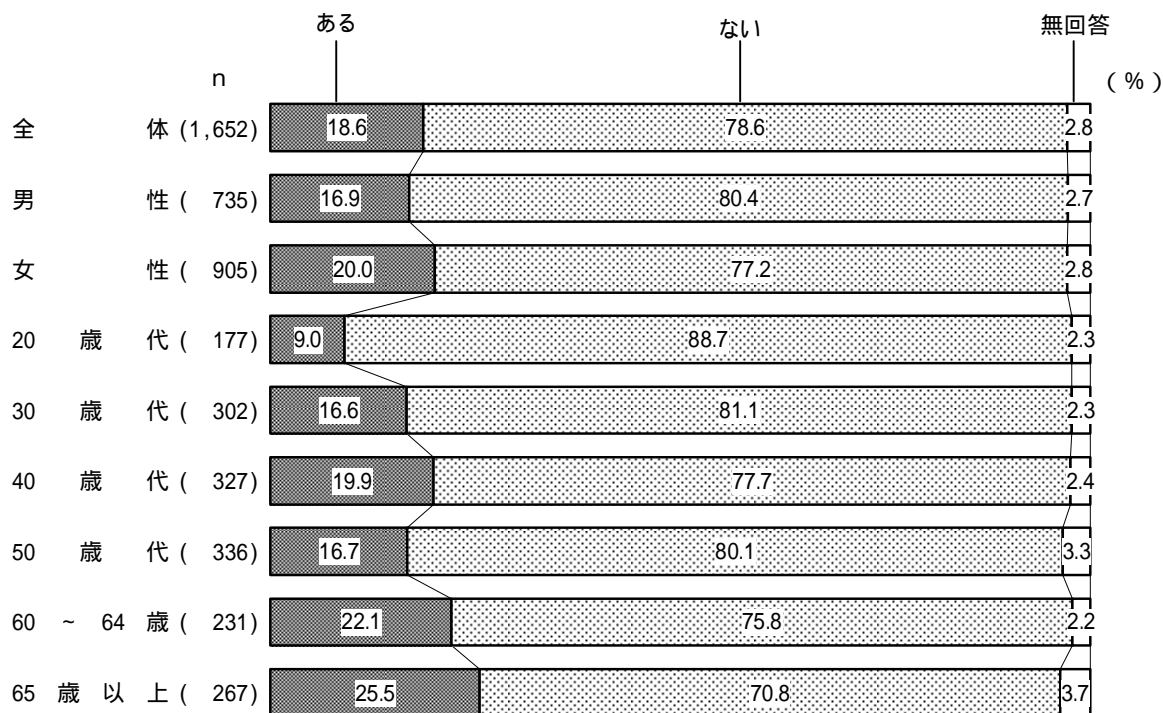
市で行っている相談は、人権、女性福祉、女性のための相談、法律、司法書士法律、不動産、登記、相続・遺言等暮らしのしの手続、年金・雇用保険・労働条件、交通事故、税金、行政、消費生活、外国人のための生活相談、団塊・シニア世代の地域参加支援、住まいのなんでも相談、建築に関する無料相談、就職などの心の悩み相談、高齢者総合、ひとり親家庭、専門家による子育て相談、子ども家庭総合、総合教育相談室、こども電話相談、あなたの相談室、こころの健康相談、HIVに関する相談、保健福祉・栄養相談、理学療法士による健康相談などです。

図 5 - 13 - 1



市の相談窓口を利用したことがあるかを聞いたところ、「ない」が8割弱(78.6%)を占めている。一方、「ある」は2割弱(18.6%)となっている。(図5 - 13 - 1)

図5 - 13 - 2 市の相談窓口の利用の有無 - 性別・年齢別

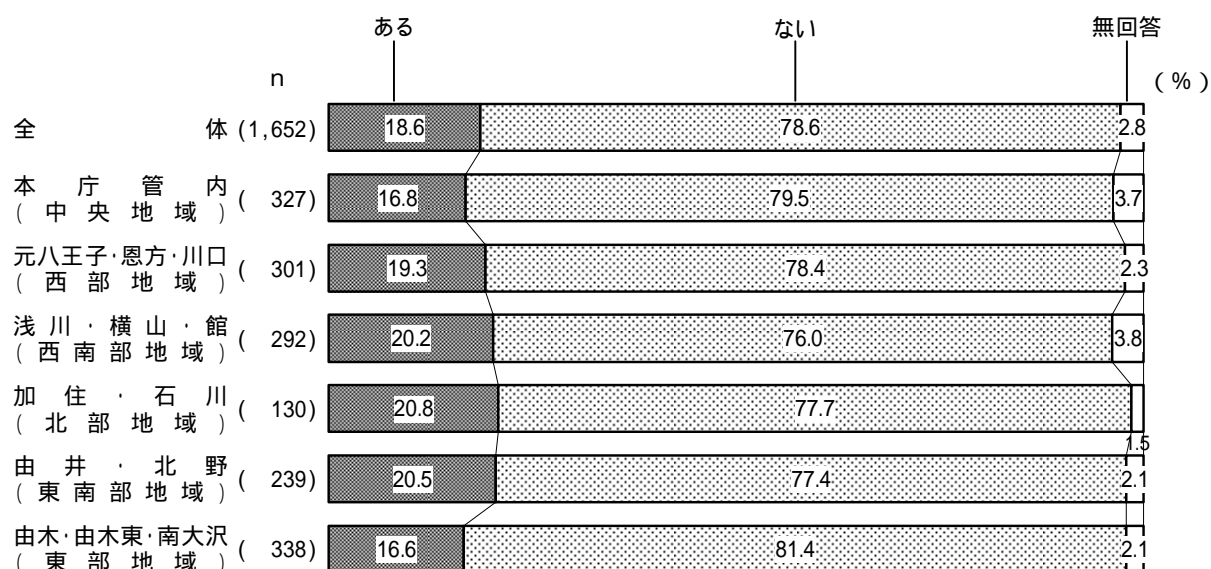


性別にみると、「ある」は女性のほうが3.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「ある」は65歳以上で2割台半ば（25.5%）と高くなっている。

（図5 - 13 - 2）

図5 - 13 - 3 市の相談窓口の利用の有無 - 居住地域別



居住地域別にみると、「ある」は浅川・横山・館（西南部地域）（20.2%）、加住・石川（北部地域）（20.8%）、由井・北野（東南部地域）（20.5%）でともにほぼ2割と高くなっている。一方、「ない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で8割強（81.4%）となっている。

（図5 - 13 - 3）

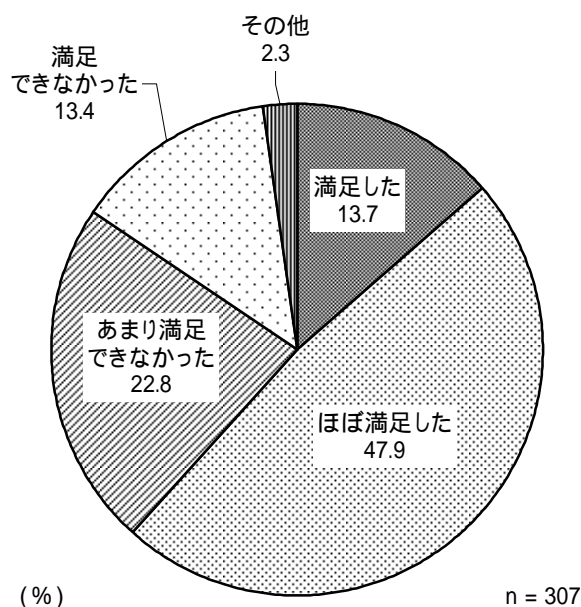
## 5 - 14 相談窓口の満足度

『満足』が6割強

(問31で「ある」とお答えの方に)

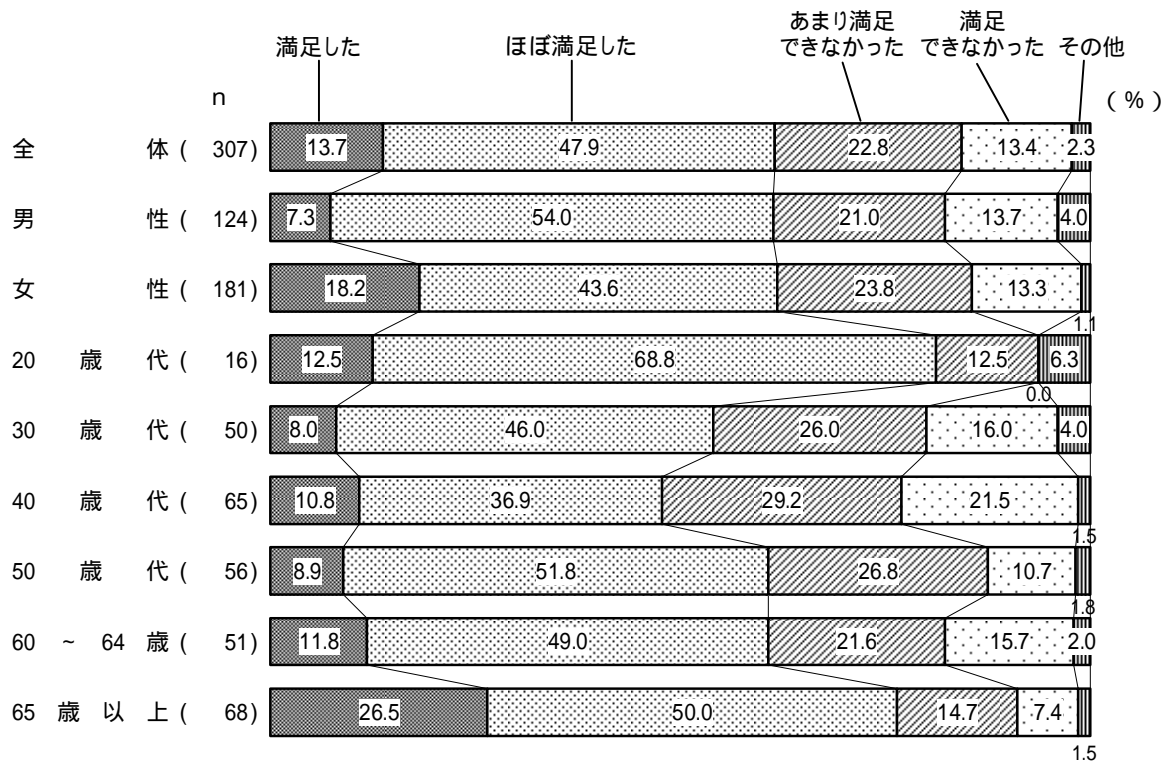
問31 - 1 あなたは、市の窓口サービス（接客度や提供内容、処理時間など）に満足していますか。（は1つだけ）

図5 - 14 - 1



市の相談窓口の利用で「ある」と答えた人（307人）に、市の暮らしの相談窓口を利用してどう感じたかを聞いたところ、「ほぼ満足した」が5割弱（47.9%）と最も高く、「満足した」（13.7%）と合わせた『満足』は6割強（61.6%）となっている。一方、「あまり満足できなかった」（22.8%）と「満足できなかった」（13.4%）を合わせた『不満』は4割弱（36.2%）となっている。（図5 - 14 - 1）

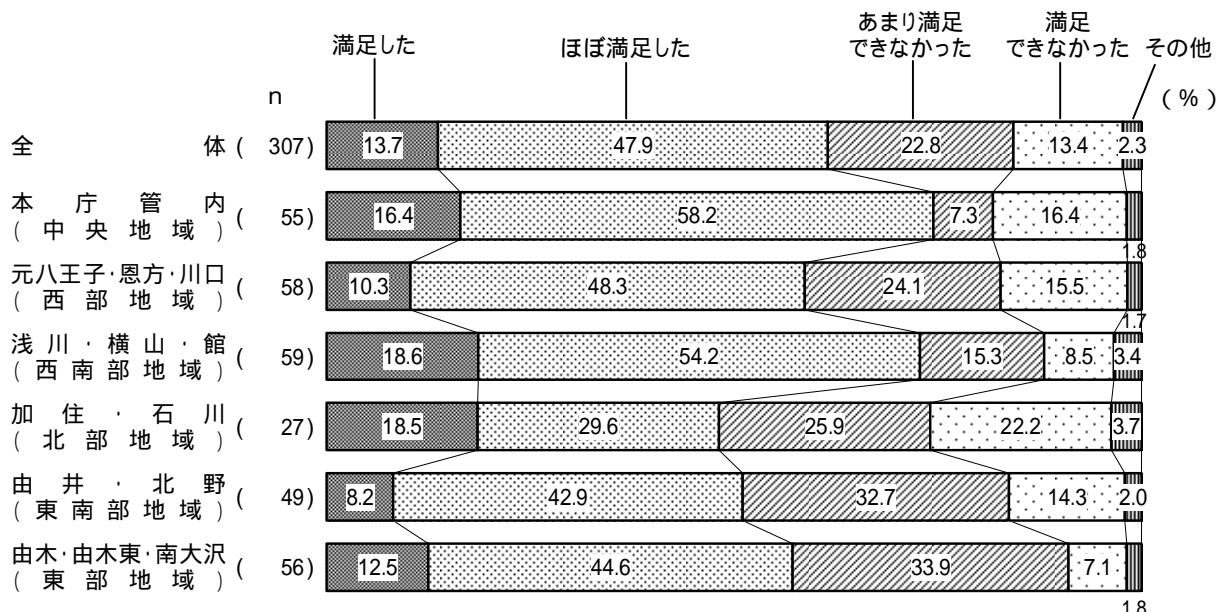
図5 - 14 - 2 相談窓口の満足度 - 性別・年齢別



性別にみると、『満足』は0.5ポイント、『不満』も2.4ポイント女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、『満足』は20歳代で8割強（81.3%）65歳以上で8割弱（76.5%）と高くなっている。（図5 - 14 - 2）

図5 - 14 - 3 相談窓口の満足度 - 居住地域別



居住地域別にみると、『満足』は本庁管内（中央地域）で7割台半ば（74.6%）と高くなっている。（図5 - 14 - 3）



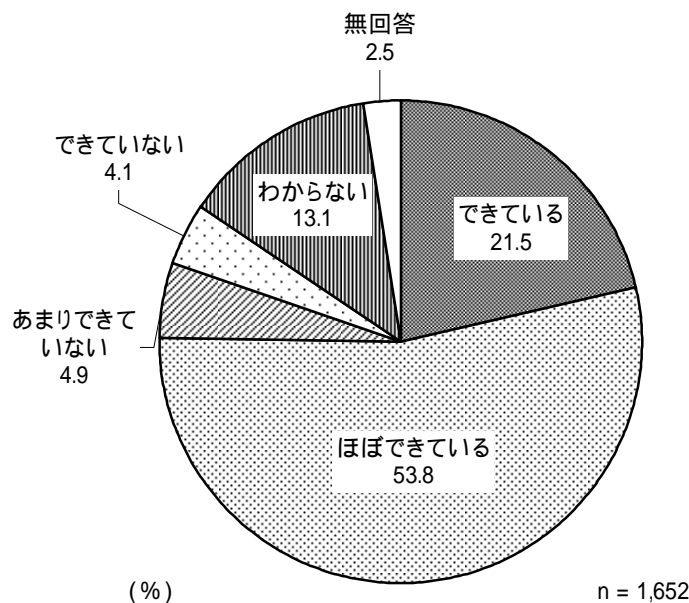
## 5 - 15 市政情報の入手しやすさ

『できている』が7割台半ば

問32 市は、市政の情報を、下記のような様々な方法で積極的に配信・提供していますが、あなたは、いずれかの方法で必要な市政情報を入手できていますか。( は1つだけ)

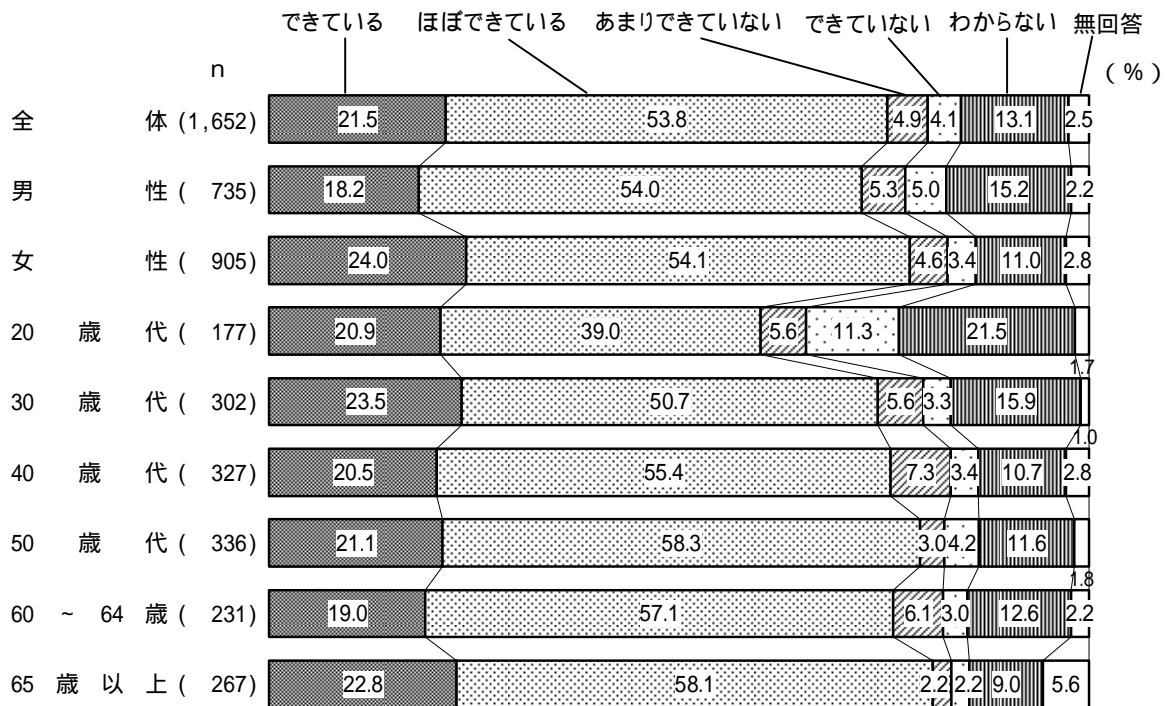
市の情報は、広報はちおうじ、ホームページ、メール(犯罪・不審者情報、防災情報)、市議会だより、町会・自治会の回覧物や掲示物、市で作成したパンフレット・ポスター、新聞・テレビなどのマスメディア、八王子テレメディア、などで配信・提供しています。

図 5 - 15 - 1



市政情報の入手しやすさについて聞いたところ、「ほぼできている」は5割強(53.8%)と最も高く、「できている」(21.5%)と合わせた『できている』は7割台半ば(75.3%)となっている。一方、「あまりできていない」(4.9%)と「できていない」(4.1%)を合わせた『できていない』は、ほぼ1割(9.0%)となっている。(図5 - 15 - 1)

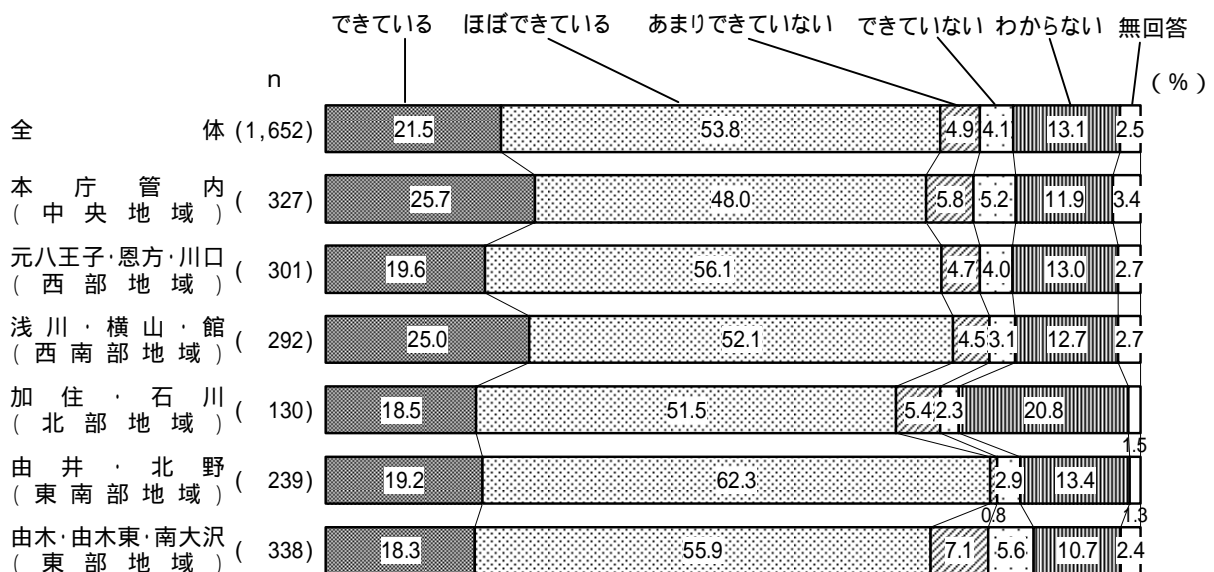
図5 - 15 - 2 市政情報の入手しやすさ - 性別・年齢別



性別にみると、『できている』は女性のほうが5.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『できている』は65歳以上（80.9%）50歳代（79.4%）でともにほぼ8割と高くなっている。（図5 - 15 - 2）

図5 - 15 - 3 市政情報の入手しやすさ - 居住地域別



居住地域別にみると、由井・北野（東南部地域）で『できている』が8割強（81.5%）と高くなっている。（図5 - 15 - 3）

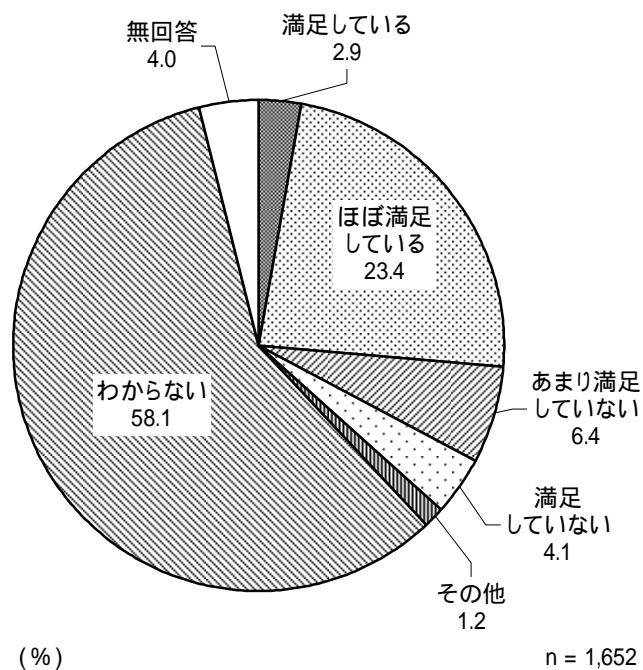
## 5 - 16 市の子育て支援施策の満足度

### 『満足』が3割弱

問33 あなたは、市が行っている様々な子育て支援策について、日頃どのように感じていますか。( は1つだけ)

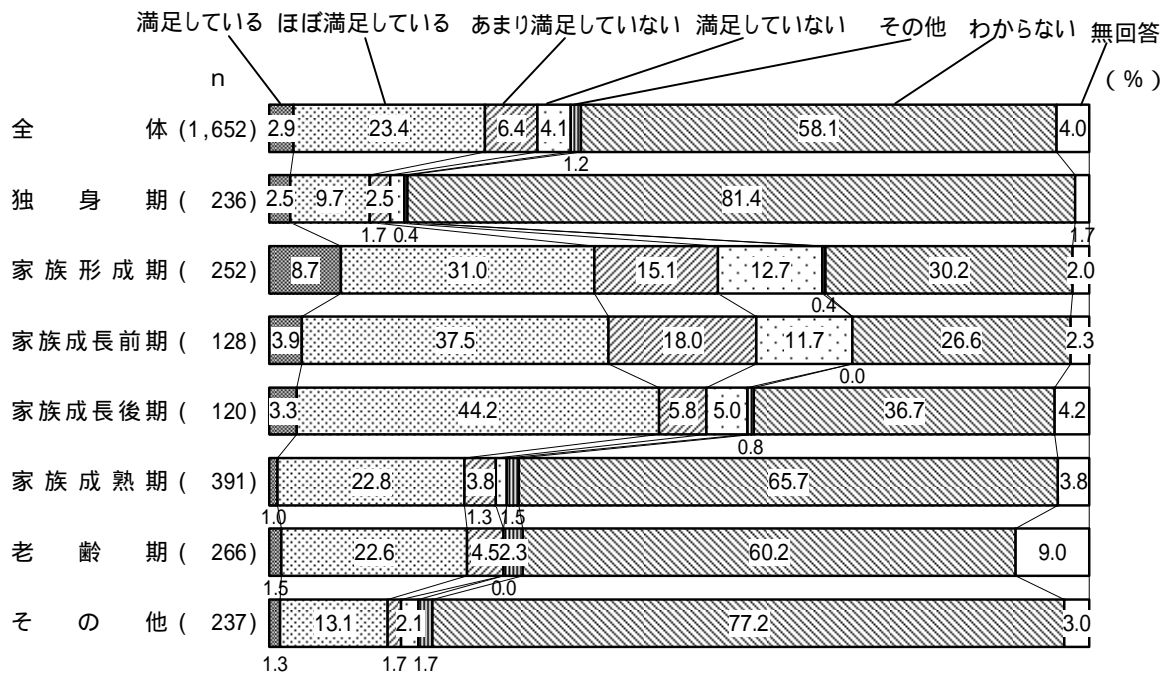
市が行っている主な子育て支援策としては、待機児童解消に向けた保育園の定員増、一時保育の拡充、親子つどいの広場の開設、市立学童保育所の整備、放課後子ども教室の開催、乳幼児医療費助成や義務教育就学児医療費助成による医療費負担の軽減等の経済的支援を行っています。また、児童館では中高生の居場所づくりに取り組んだり、子ども家庭支援センターでは地域の子育て支援の拠点として児童虐待防止ネットワークなど様々な取組を行っています。

図5 - 16 - 1



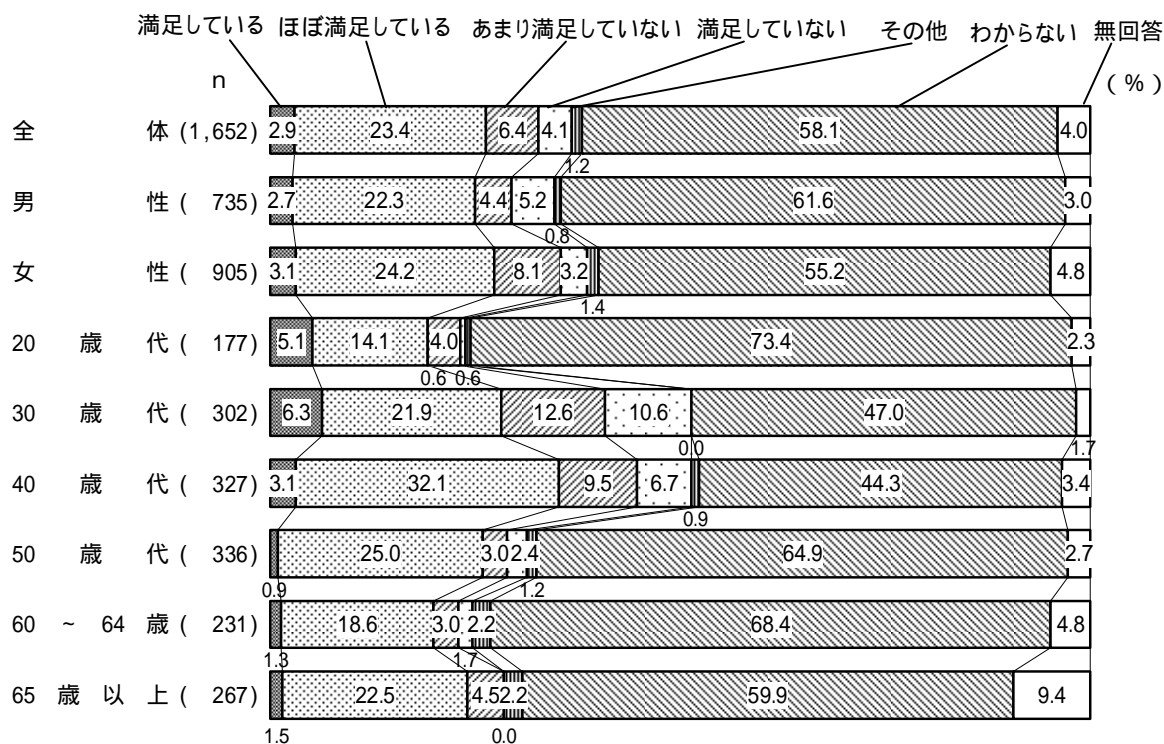
市の子育て支援施策についてどのように感じているかについて聞いたところ、「満足している」(2.9%)と「ほぼ満足している」(23.4%)を合わせた『満足』は3割弱(26.3%)となっている。一方、「あまり満足していない」(6.4%)と「満足していない」(4.1%)を合わせた『不満』はほぼ1割(10.5%)となっている。(図5 - 16 - 1)

図5 - 16 - 2 市の子育て支援施策の満足度 - ライフステージ別



ライフステージ別にみると、『満足』は家族成長後期で5割弱（47.5%）と高くなっている。一方、『不満』は家族成長前期でほぼ3割（29.7%）と高くなっている。（図5 - 16 - 2）

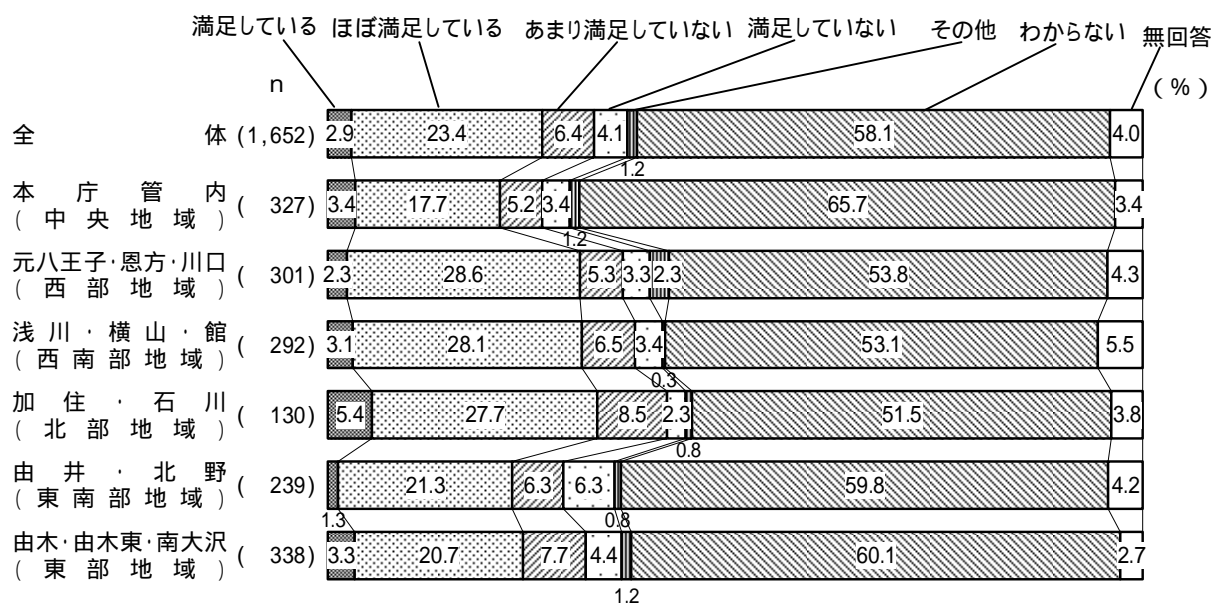
図5 - 16 - 3 市の子育て支援施策の満足度 - 性別・年齢別



性別にみると、『満足』は2.3ポイント女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、『満足』は40歳代で3割台半ば（35.2%）と高くなっている。一方、『不満』は30歳代で2割強（23.2%）と高くなっている。（図5 - 16 - 3）

図5 - 16 - 4 市の子育て支援施策の満足度 - 居住地域別

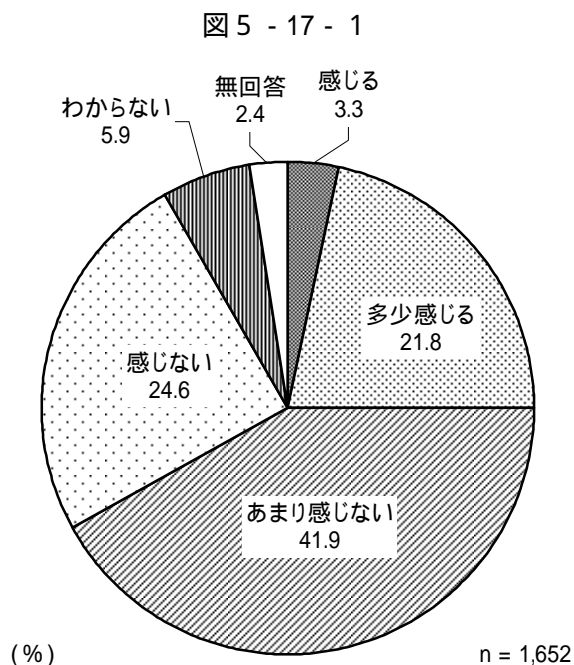


居住地域別にみると、『満足』は元八王子・恩方・川口（西部地域）（30.9%）、浅川・横山・館（西南部地域）（31.2%）、加住・石川（北部地域）（33.1%）で3割台と高くなっている。（図5 - 16 - 4）

## 5 - 17 市のにぎわいと活力の有無

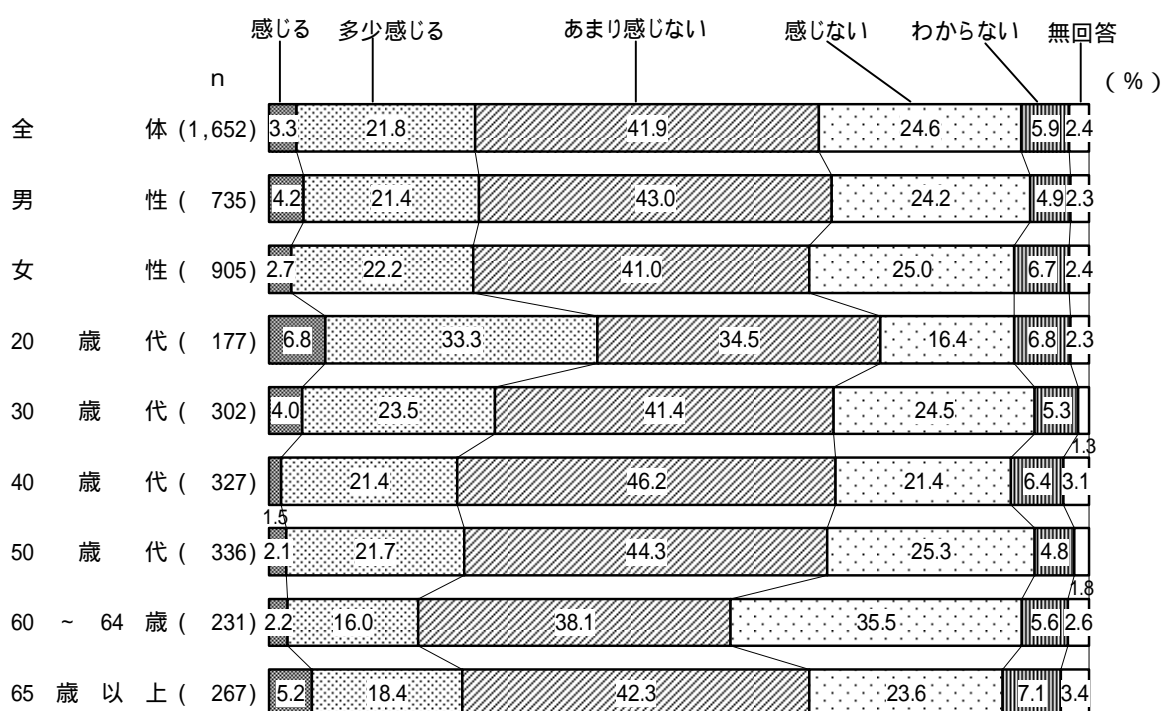
『感じない』が7割弱

問34 あなたは、市がにぎわいと活力があるまちであると感じますか。( は1つだけ)



八王子市がにぎわいと活力があるまちであると感じるかを聞いたところ、「あまり感じない」が4割強(41.9%)と最も高く、「感じない」(24.6%)を合わせた『感じない』は7割弱(66.5%)となっている。一方、「感じる」(3.3%)と「多少感じる」(21.8%)を合わせた『感じる』は2割台半ば(25.1%)となっている。(図5 - 17 - 1)

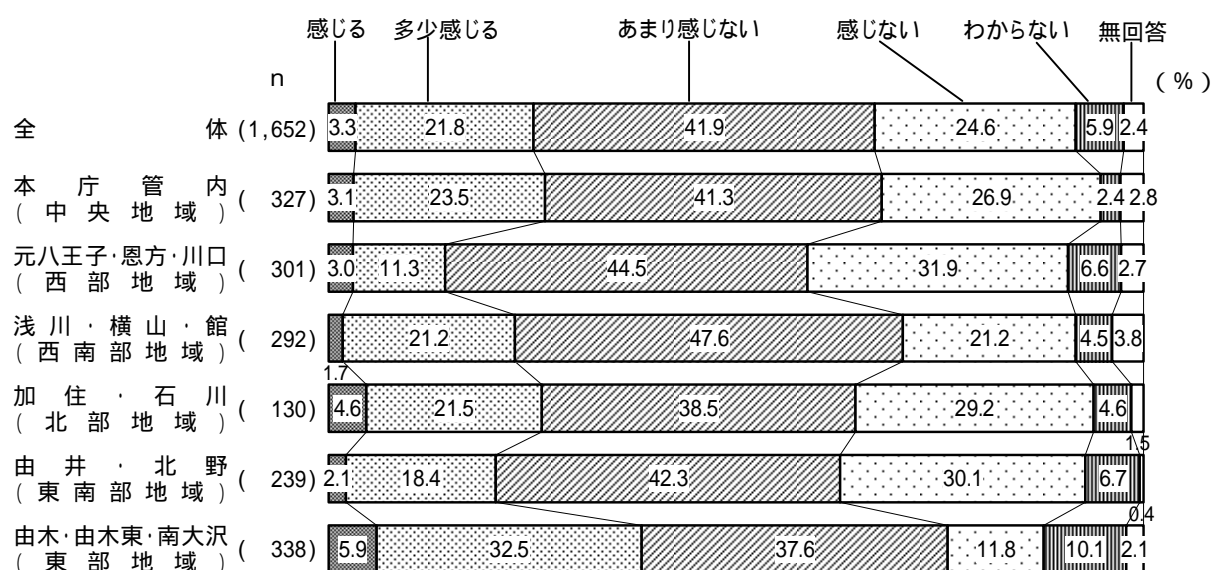
図5 - 17 - 2 市のにぎわいと活力の有無 - 性別・年齢別



性別にみると、『感じる』は1.2ポイント男性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、『感じる』は20歳代でほぼ4割（40.1%）と高くなっている。一方、『感じる』は60～64歳で7割強（73.6%）と高くなっている。（図5 - 17 - 2）

図5 - 17 - 3 市のにぎわいと活力の有無 - 居住地域別



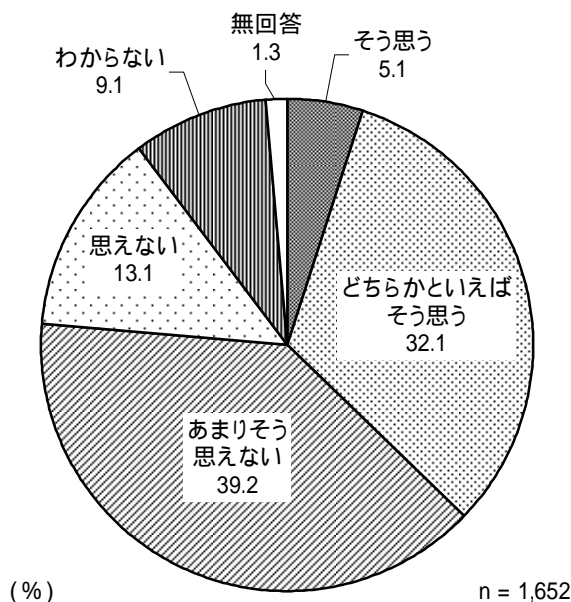
居住地域別にみると、『感じる』は由木・由木東・南大沢（東部地域）で4割弱（38.4%）と高くなっている。（図5 - 17 - 3）

## 5 - 18 市は景観に配慮されたまちであるか

『思えない』が5割強

問35 あなたは、本市が景観に配慮されたまちであると思いますか。( は1つだけ)

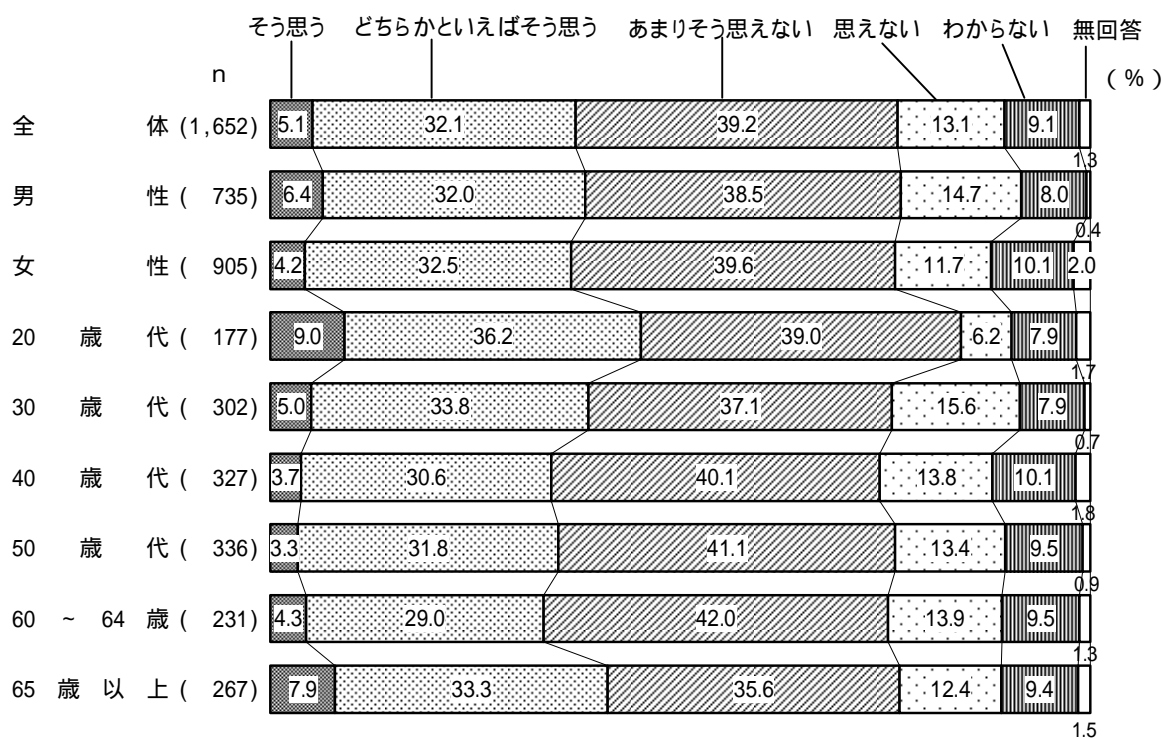
図5 - 18 - 1



市が景観に配慮されたまちであるかについて聞いたところ、「あまりそう思えない」がほぼ4割(39.2%)と最も高く、「思えない」(13.1%)と合わせた『思えない』は5割強(52.3%)となっている。一方、「そう思う」(5.1%)と「どちらかといえばそう思う」(32.1%)を合わせた『そう思う』は4割弱(37.2%)となっている。(図5 - 18 - 1)



図5 - 18 - 2 市は景観に配慮されたまちであるか - 性別・年齢別

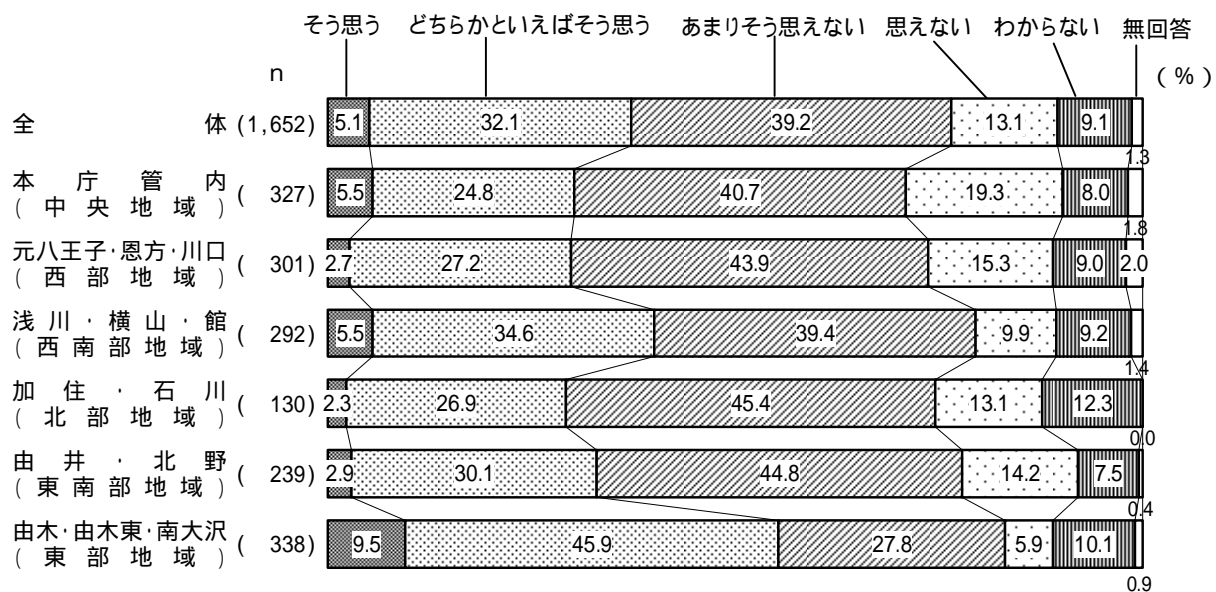


性別にみると、『思えない』は1.9ポイント男性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、『そう思う』は20歳代で4割台半ば（45.2%）と高くなっている。

(図5 - 18 - 2)

図5 - 18 - 3 市は景観に配慮されたまちであるか - 居住地域別



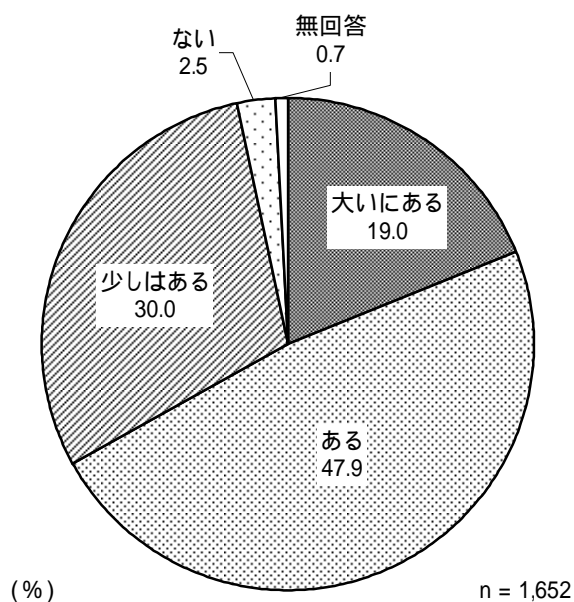
居住地域別にみると、『そう思う』は由木・由木東・南大沢（東部地域）で5割台半ば（55.4%）と高くなっている。(図5 - 18 - 3)

## 5 - 19 環境問題への関心度

環境問題に関心が『ある』人は10割弱

問36 あなたは、環境問題に関心はありますか。( は1つだけ)

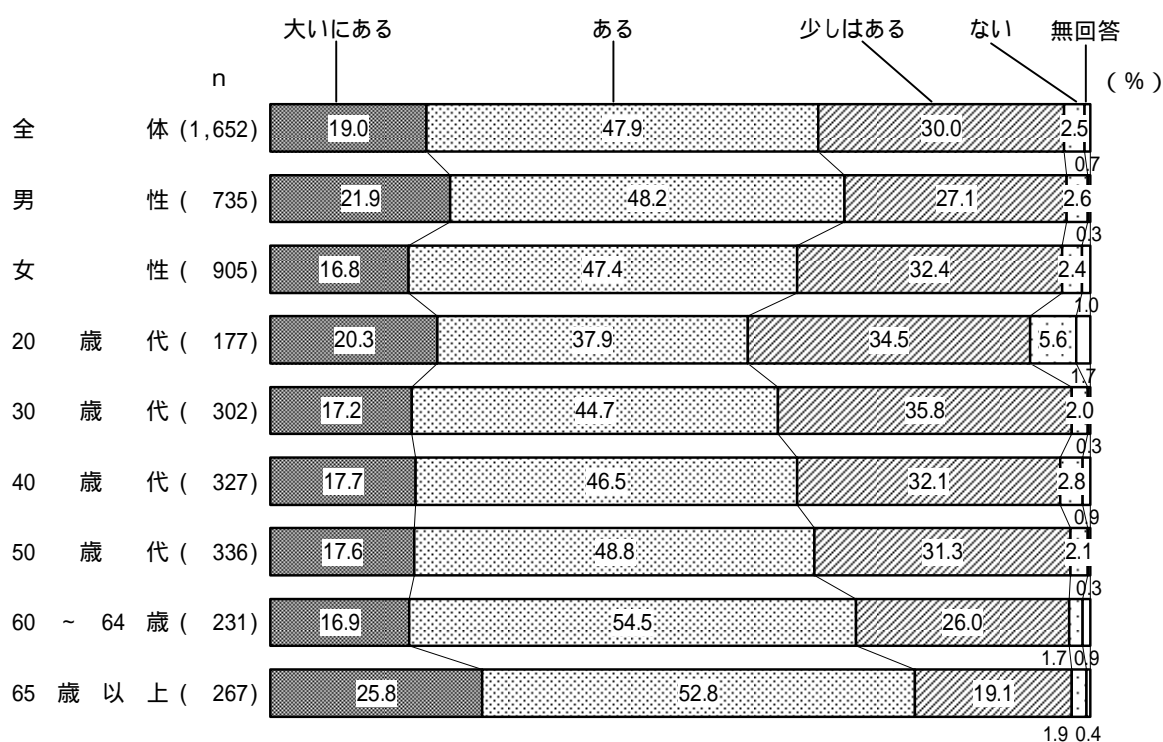
図5 - 19 - 1



環境問題に関心があるかどうかについて聞いたところ、「ある」が5割弱(47.9%)、「少しはある」が3割(30.0%)、「大いにある」がほぼ2割(19.0%)となっていて、3項目を合わせた『ある』は10割弱(96.9%)と非常に高くなっている。一方で「ない」は2.5%となっている。

(図5 - 19 - 1)

図5 - 19 - 2 環境問題への関心度 - 性別・年齢別

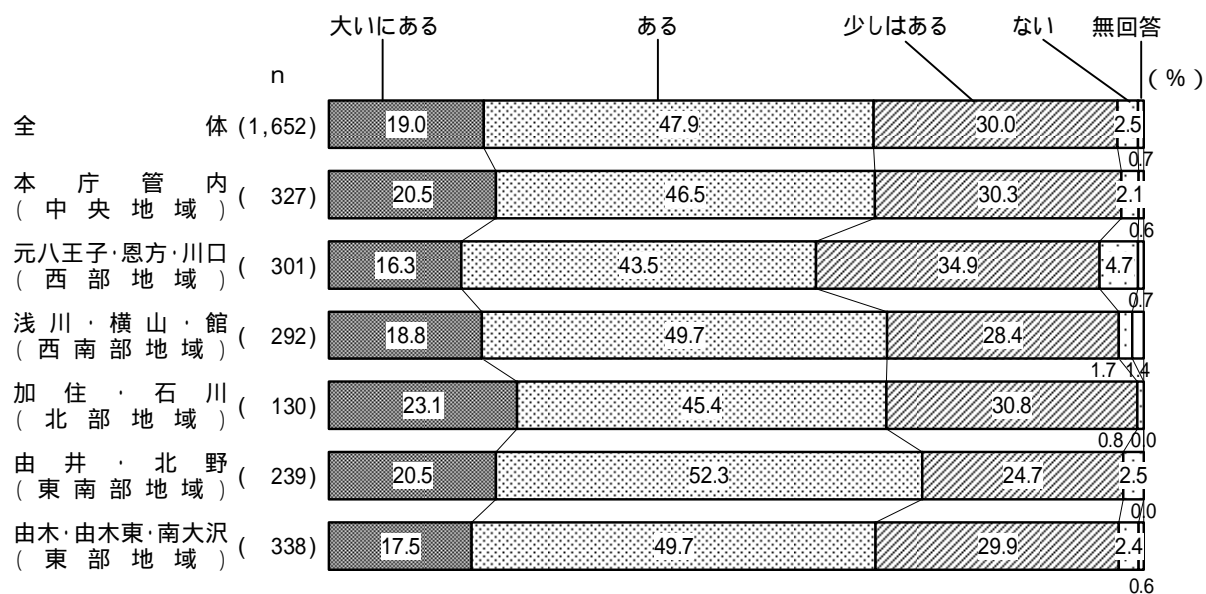


性別にみると、「大いにある」は男性のほうが5.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「大いにある」は65歳以上で2割台半ば（25.8%）と高くなっている。

（図5 - 19 - 2）

図5 - 19 - 3 環境問題への関心度 - 居住地域別



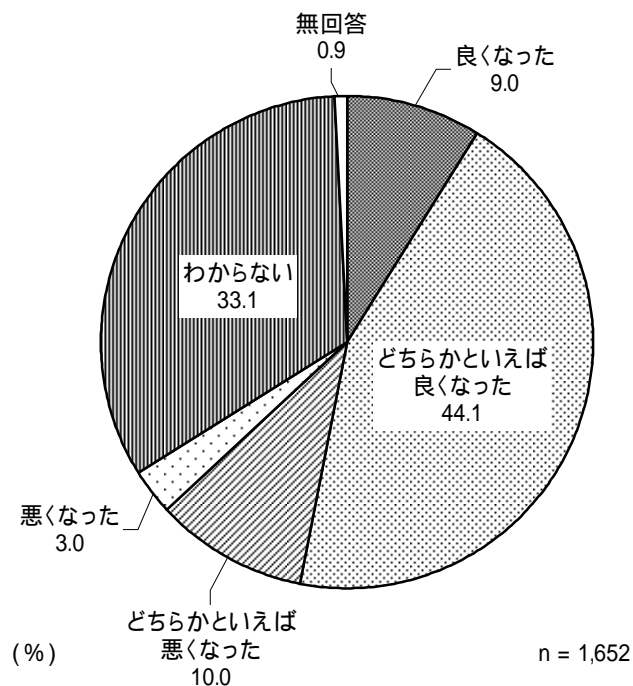
居住地域別にみると、「大いにある」、「ある」、「少しはある」の計は、加住・石川（北部地域）でほぼ10割（99.3%）と高くなっている。（図5 - 19 - 3）

## 5 - 20 市の現在の環境

『良くなった』が5割強

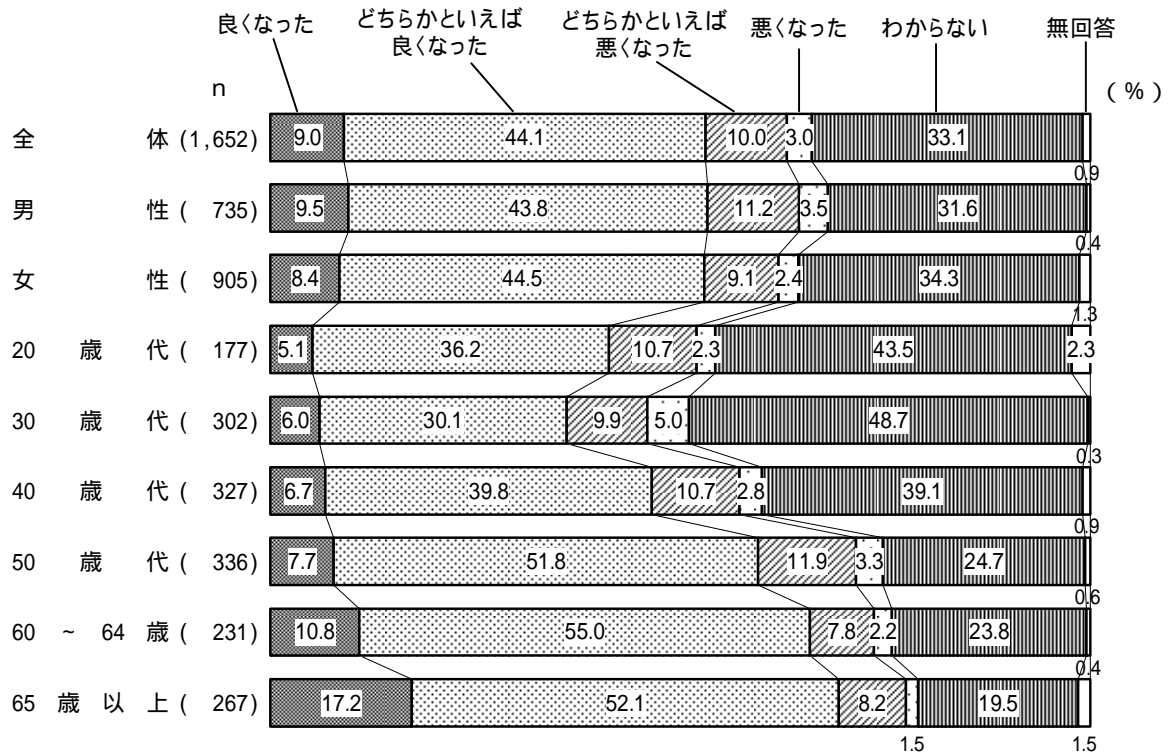
問37 あなたは、本市の環境（水、緑、ごみ、大気など）が以前と比べどうなったと感じていますか。（ は1つだけ）

図 5 - 20 - 1



市の環境が以前と比べてどうなったと感じるかを聞いたところ、「良くなった」(9.0%)と「どちらかといえば良くなった」(44.1%)を合わせた『良くなった』は5割強(53.1%)となっている。一方、「どちらかといえば悪くなった」(10.0%)と「悪くなった」(3.0%)を合わせた『悪くなった』は1割強(13.0%)となっている。(図5 - 20 - 1)

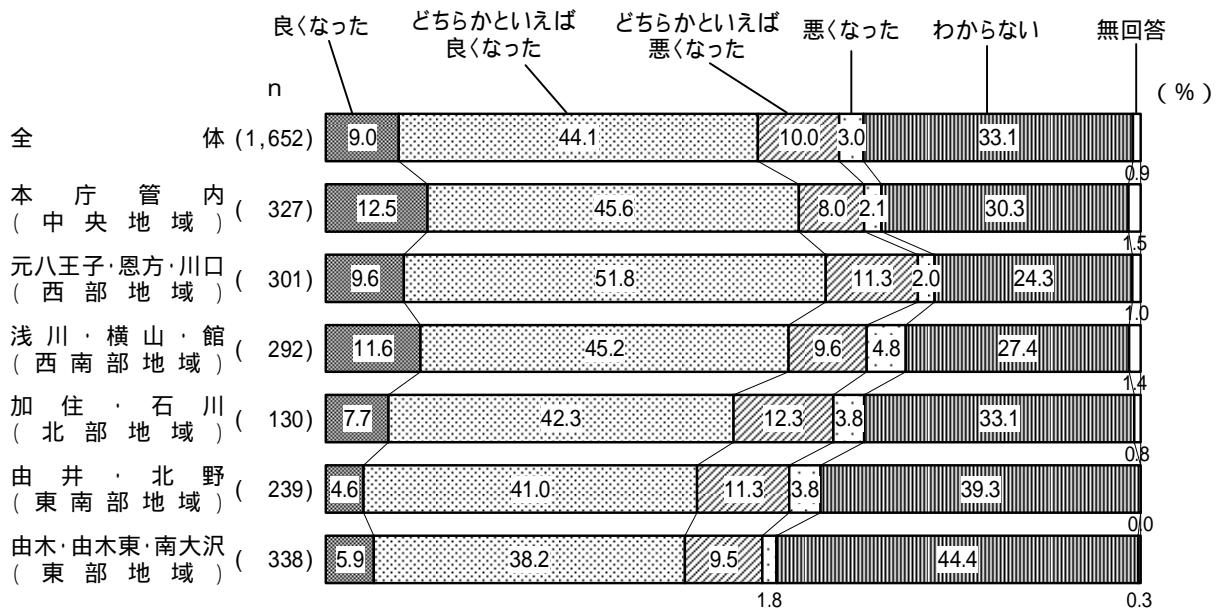
図5 - 20 - 2 市の現在の環境 - 性別・年齢別



性別にみると、『悪くなった』は3.2ポイント男性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、『良くなった』はおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、特に65歳以上ではほぼ7割 (69.3%) と高くなっている。(図5 - 20 - 2)

図5 - 20 - 3 市の現在の環境 - 居住地域別

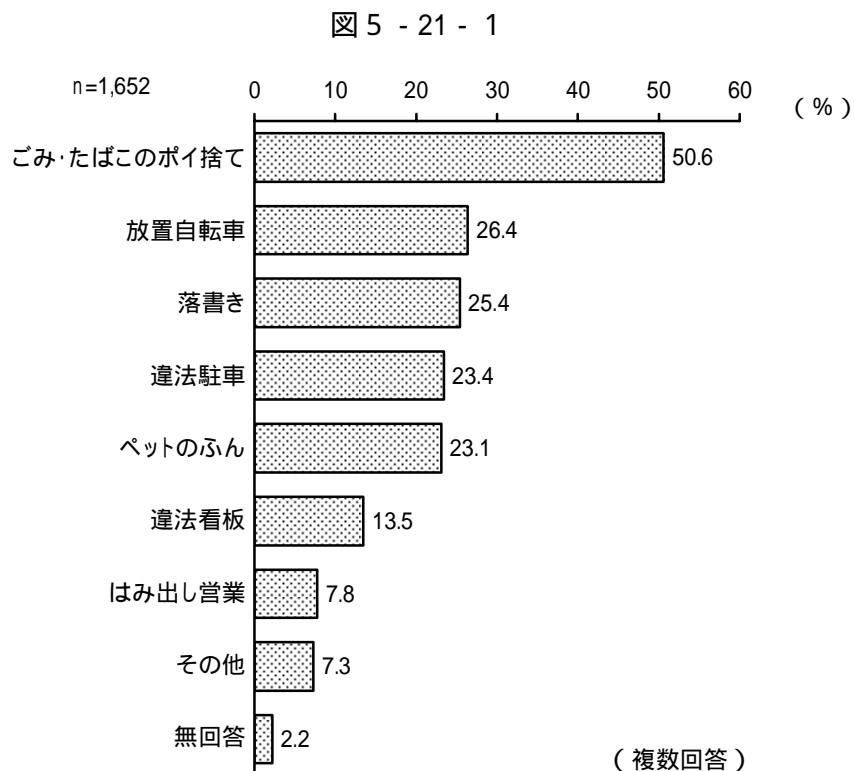


居住地域別にみると、『良くなった』は元八王子・恩方・川口 (西部地域) で6割強 (61.4%) と高くなっている。(図5 - 20 - 3)

## 5 - 21 都市の美観が損なわれる原因

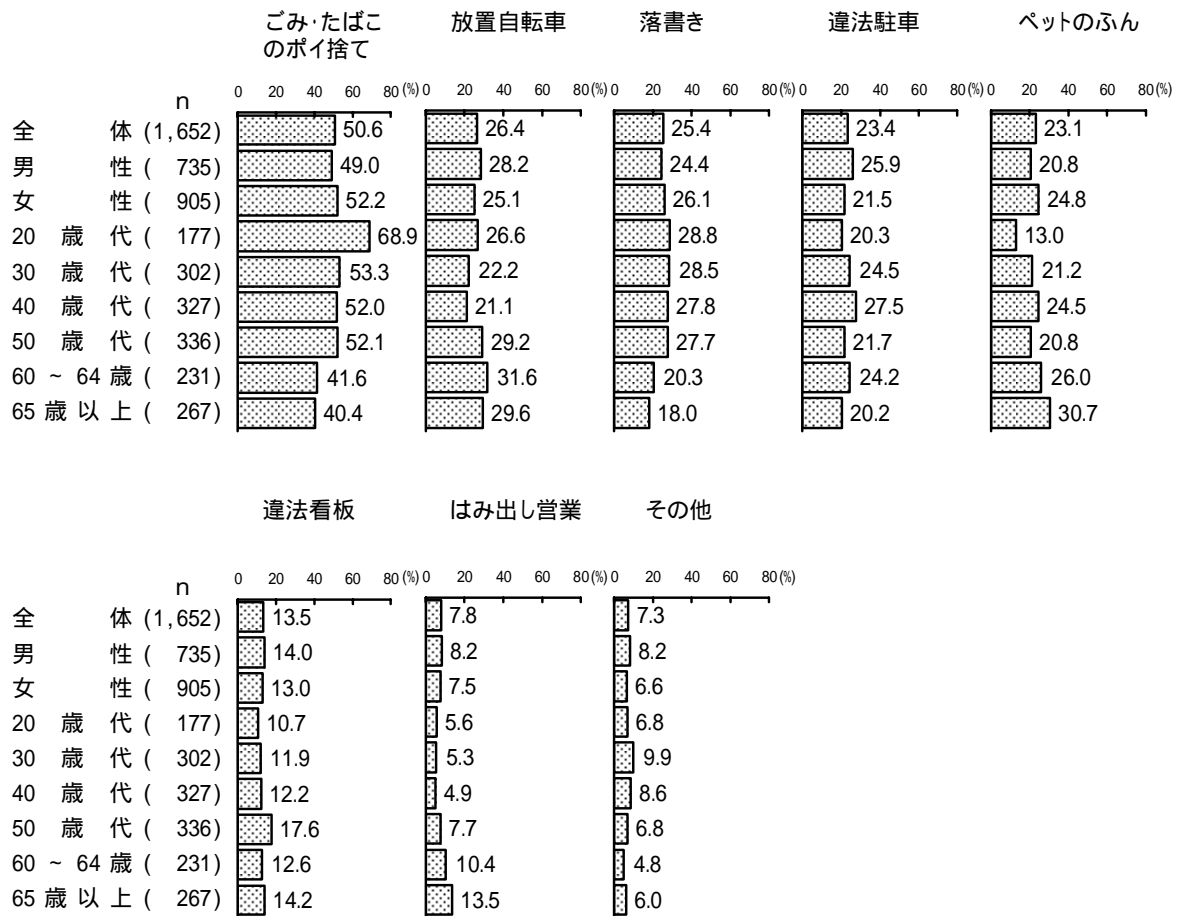
「ごみ・たばこのポイ捨て」がほぼ5割で突出

問38 都市の美観が損なわれる主な原因は、次のどれだと思いますか。(○は2つまで)



都市の美観が損なわれる主な原因について聞いたところ、「ごみ・たばこのポイ捨て」がほぼ5割(50.6%)と最も高く、ついで「放置自転車」(26.4%)、「落書き」(25.4%)、「違法駐車」(23.4%)、「ペットのふん」(23.1%)と続いている。(図5 - 21 - 1)

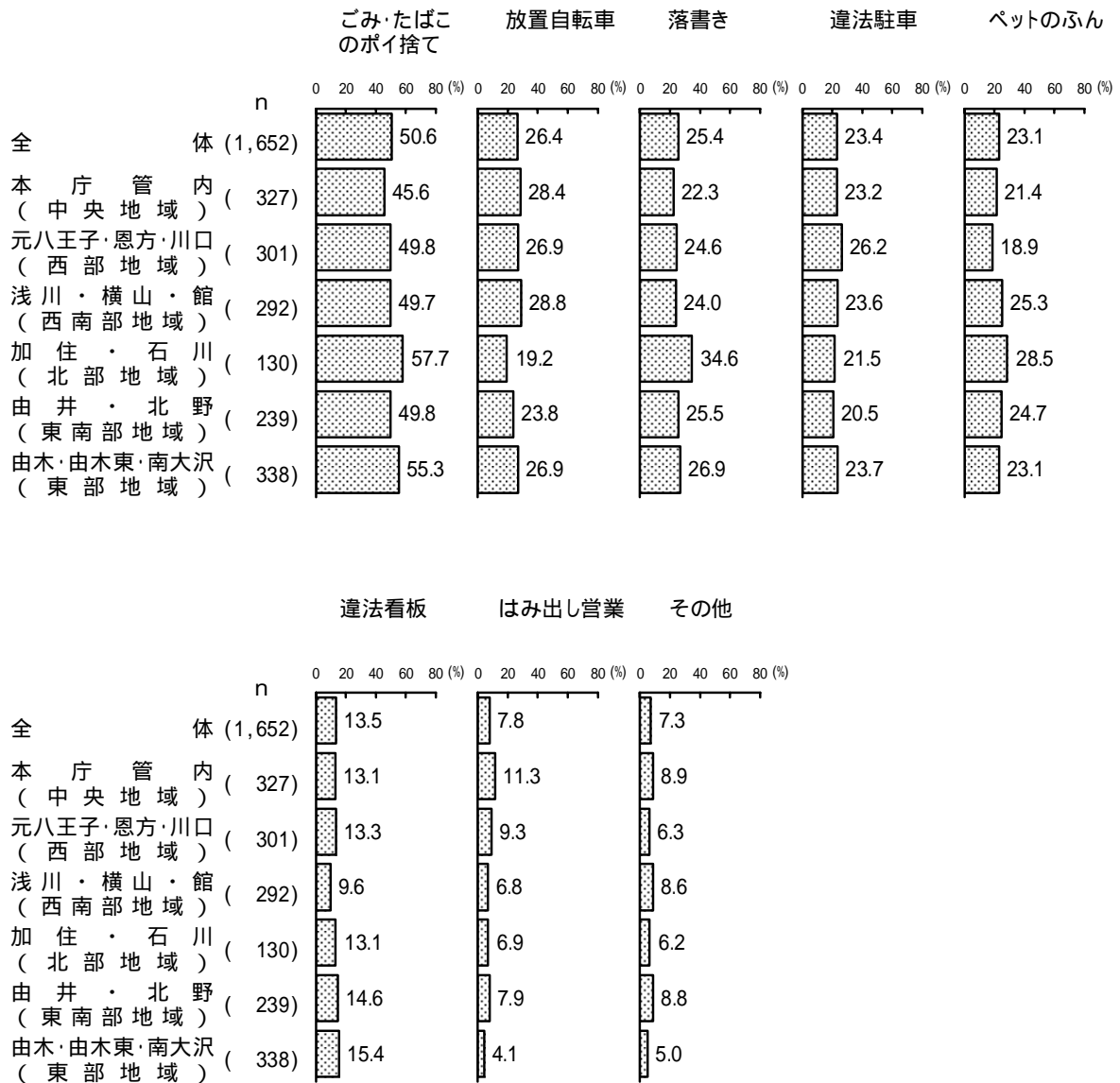
図5 - 21 - 2 都市の美観が損なわれる原因 - 性別・年齢別



性別にみると、「違法駐車」は4.4ポイント、「放置自転車」は3.1ポイント、それぞれ男性のほうが高くなっている。また、「ペットのふん」は4.0ポイント、「ごみ・たばこのポイ捨て」は3.2ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「ごみ・たばこのポイ捨て」はおおむね年代が下がるにつれて割合が高く、特に20歳代では7割弱（68.9%）と高くなっている。また、「ペットのふん」は65歳以上でほぼ3割（30.7%）と高くなっている。（図5 - 21 - 2）

図5 - 21 - 3 都市の美観が損なわれる原因 - 居住地域別



居住地域別にみると、「ごみ・たばこのポイ捨て」は加住・石川（北部地域）で6割弱（57.7%）、由木・由木東・南大沢（東部地域）（55.3%）で5割台半ばと高くなっている。また、「落書き」は加住・石川（北部地域）で3割台半ば（34.6%）と高くなっている。

(図5 - 21 - 3)

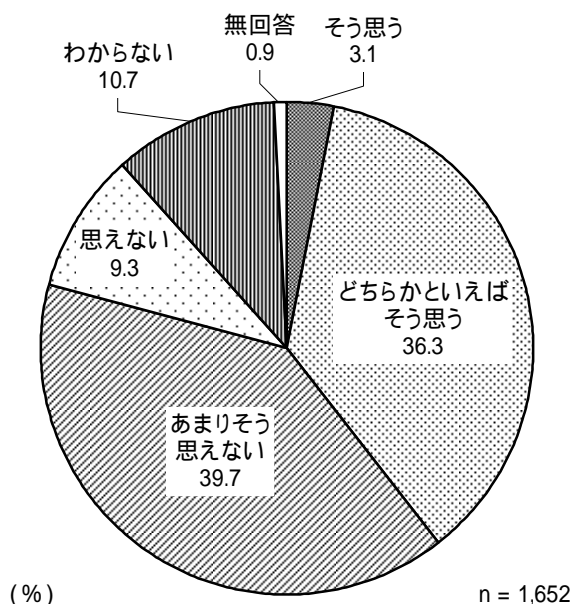


## 5 - 22 市は美観が保持されたまちだと思うか

『そう思う』がほぼ4割

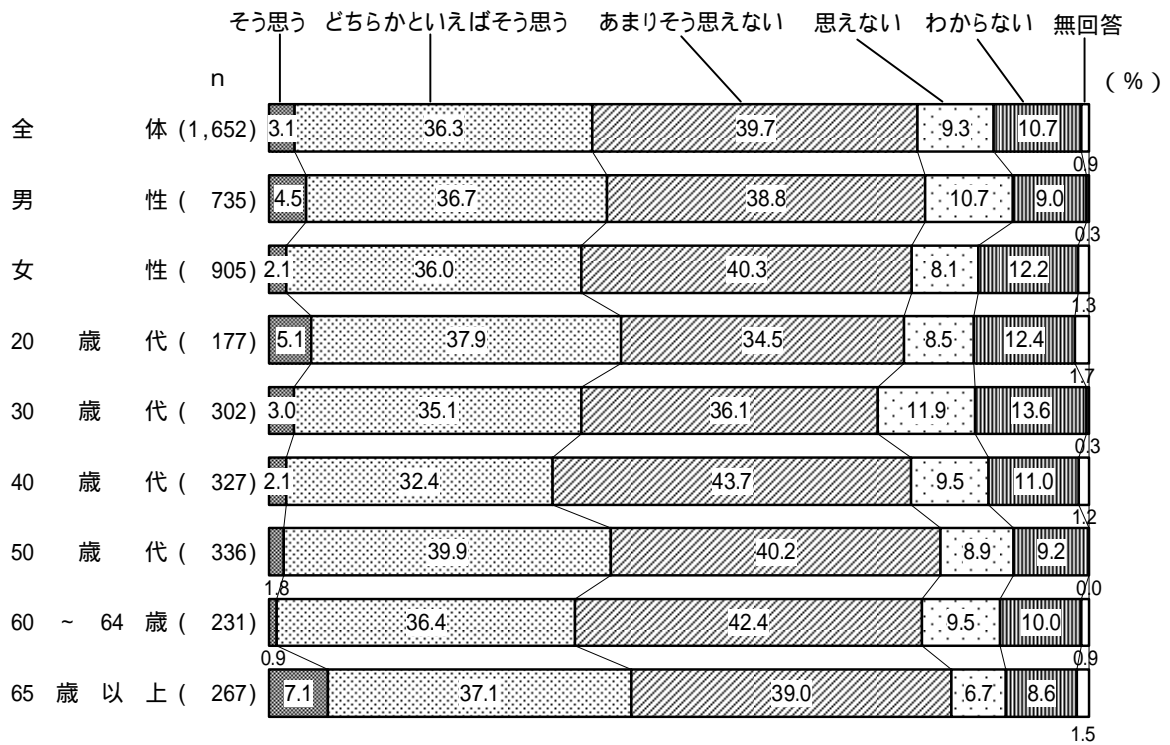
問39 本市は、都市の美観が保持されているまちであると思いますか。( は1つだけ)

図5 - 22 - 1



八王子市は美観が保持されたまちだと思うかどうかを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」が4割弱(36.3%)で、「そう思う」(3.1%)と合わせた『そう思う』はほぼ4割(39.4%)となっている。一方、「あまりそう思えない」(39.7%)と「思えない」(9.3%)を合わせた『思えない』はほぼ5割(49.0%)となっている。(図5 - 22 - 1)

図5 - 22 - 2 市は美観が保持されたまちだと思うか - 性別・年齢別

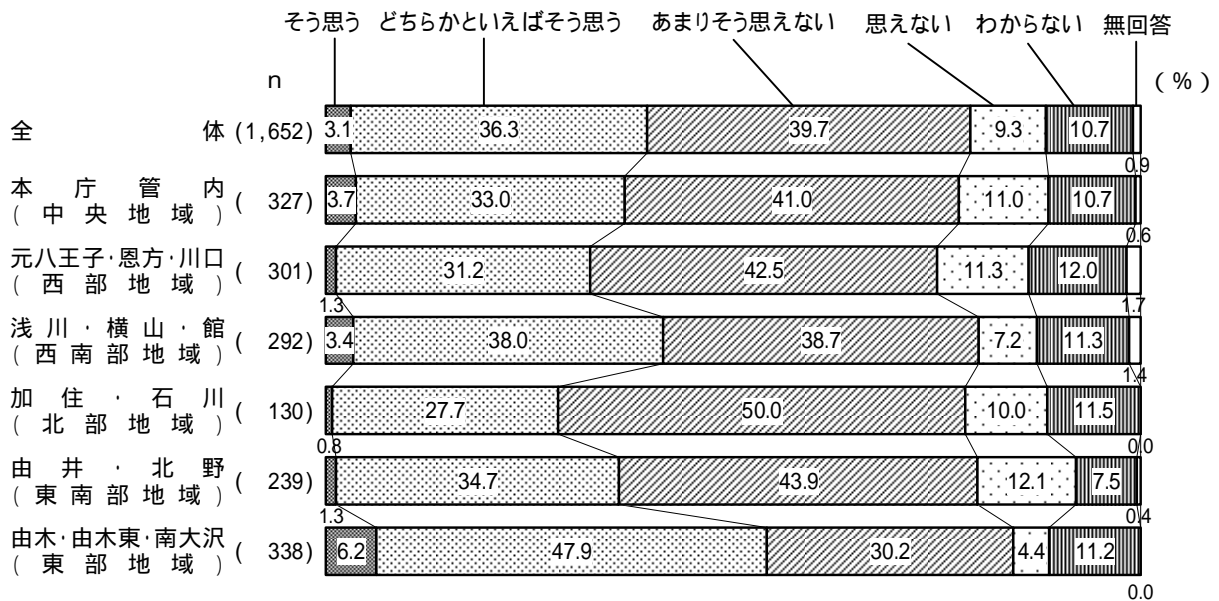


性別にみると、『そう思う』は男性のほうが3.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『そう思う』は65歳以上で4割台半ば（44.2%）と高くなっている。

(図5 - 22 - 2)

図5 - 22 - 3 市は美観が保持されたまちだと思うか - 居住地域別



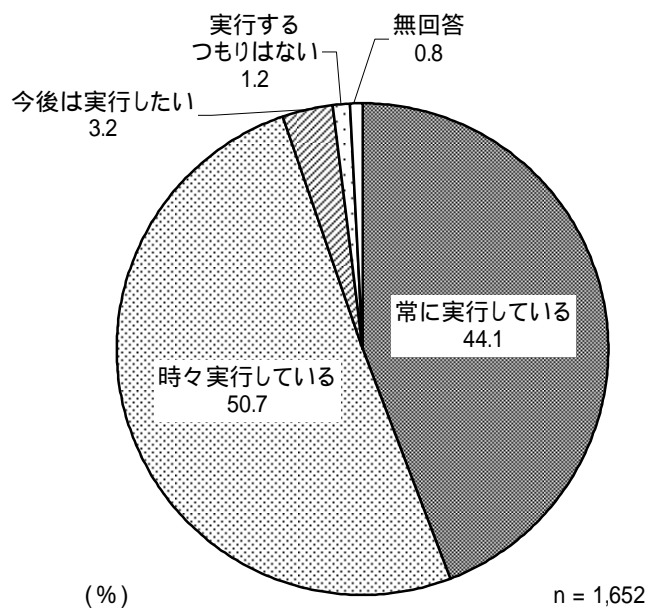
居住地域別にみると、『そう思う』は由木・由木東・南大沢（東部地域）で5割台半ば（54.1%）と高くなっている。一方、『そう思わない』は加住・石川（北部地域）で6割（60.0%）と高くなっている。(図5 - 22 - 3)

## 5 - 23 省エネ・省資源を実行しているか

『実行している』が9割台半ば

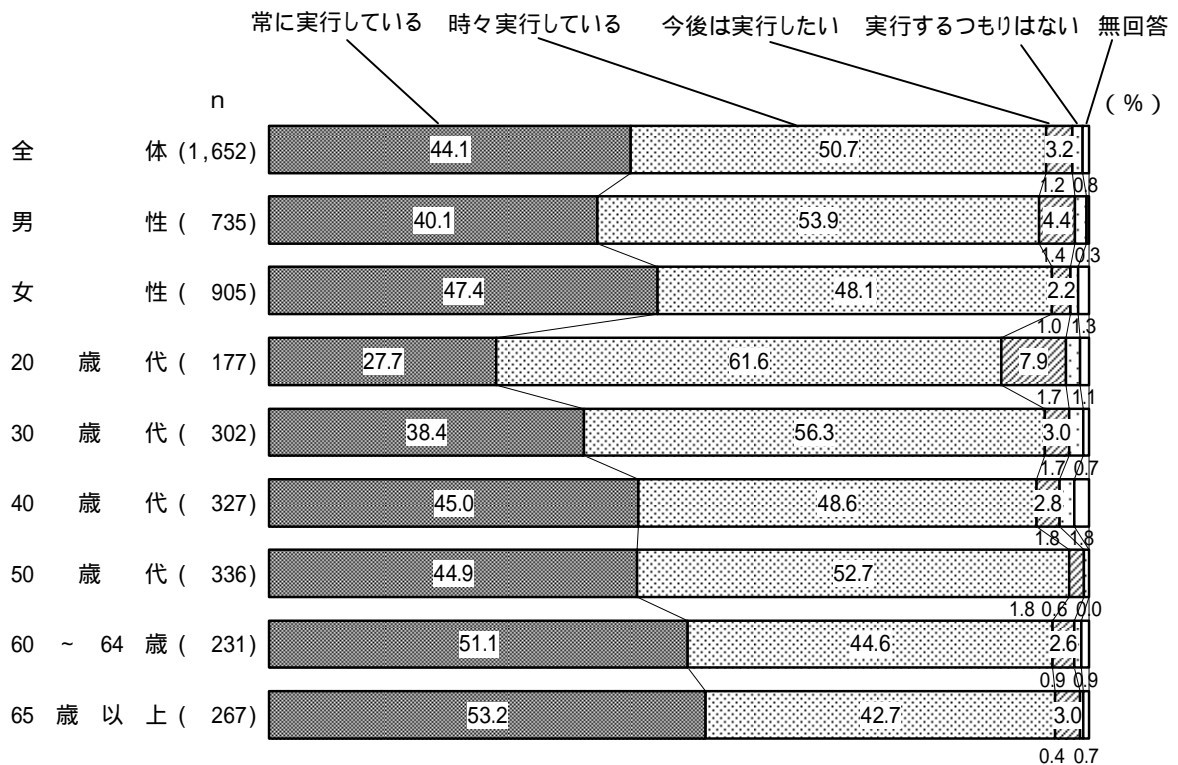
問40 省エネ・省資源のためには、冷暖房を控える、電気をこまめに消す、冷蔵庫の開閉に気を遣う、ごみ減量のためのリサイクルを心がける、マイカーの使用を控える、省エネ製品を利用する、買物用のバッグを持参して買い物に行くなどがありますが、あなたは、省エネ・省資源を意識して実行していますか。( は1つだけ)

図 5 - 23 - 1



省エネ・省資源の実行について聞いたところ、「時々実行している」がほぼ5割(50.7%)、「常に実行している」が4割台半ば(44.1%)で、両者を合わせた『実行している』は9割台半ば(94.8%)と高くなっている。(図5 - 23 - 1)

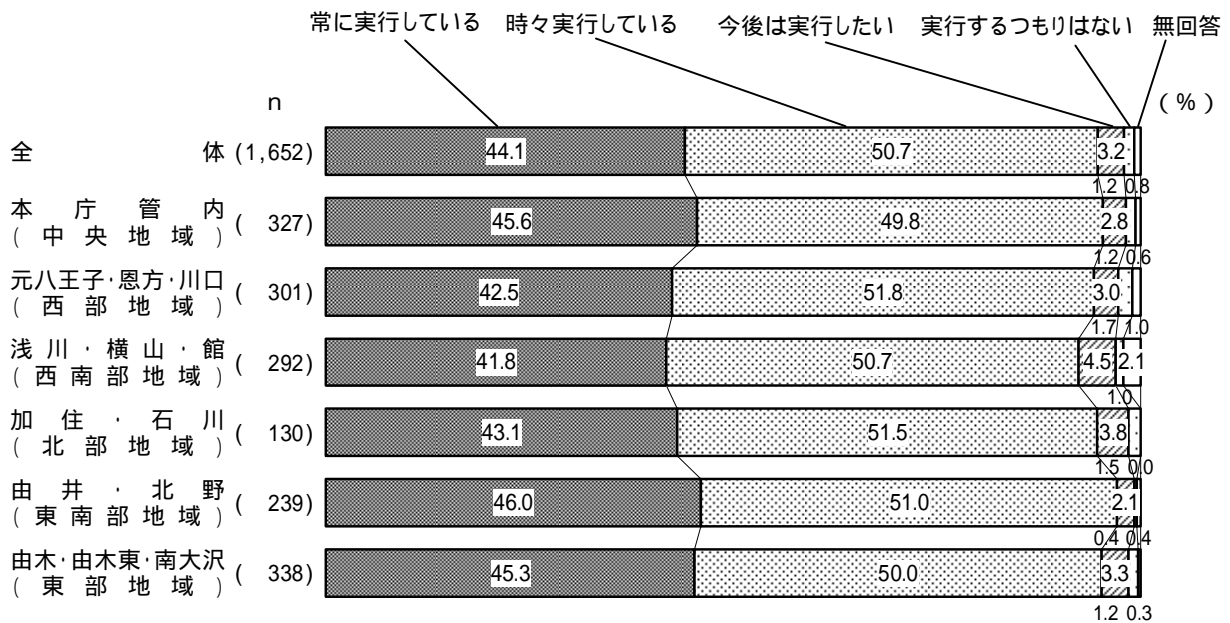
図5 - 23 - 2 省エネ・省資源を実行しているか - 性別・年齢別



性別にみると、「常に実行している」は女性のほうが7.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「常に実行している」はおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、65歳以上（53.2%）、60～64歳（51.1%）でともに5割強と高くなっている。（図5 - 23 - 2）

図5 - 23 - 3 省エネ・省資源を実行しているか - 居住地域別



居住地域別にみると、『実行している』は由井・北野（東南部地域）で10割弱（97.0%）と高くなっている。（図5 - 22 - 3）

